

# 地上から天国へ続くライフスタイル

～ 衣・食・住 ～



津嘉山 繁



## 地上から天国へ続くライフスタイル（衣・食・住）

---

---

- ☆「わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる」 ピリピ 3:20
- ☆「地上の生活は天上の生活の始まりである」 「教育」359 頁
- 

### 【1】地上から天国へ続くライフスタイル

#### （1）はじめに

1. SDA型ライフスタイル .....	1
2. 私たちの国籍は天にある .....	2
3. 天国に行く準備 .....	3
4. 地上の生活は天上の生活の始まり .....	5

#### （2）衣服について

1. 服装で品性が判断される .....	6
2. 天国での服装 .....	7
3. イエス様の服装 .....	8
4. 聖書の教え .....	9
5. 「家庭の教育」より .....	10

#### （3）食事について

1. 天国では何を食べる .....	12
2. いのちの木の实 .....	14
3. 肉食について .....	15
4. 菜食中心 .....	17
5. 味覚は変わる .....	18
6. 噛むこと .....	19
7. 生きるために食べる .....	22

#### (4) 住まいについて

1. エデンの園 .....	23
2. 都会の生活 .....	24
3. 田舎に住む .....	25
4. イエス様の経験 .....	26
5. 自然の雰囲気の中に住む .....	28
6. 天国での仕事、農業 .....	29
7. 田舎に家を .....	31
8. 本気で再臨への備えを .....	32
9. 地上の生活から天上の生活に .....	33

#### 【2】天国に国籍を持つ者

1. わたしたちの国籍は天にある .....	35
2. ある教会での結婚式の時の出来事 .....	36
3. 体は変えられる .....	38
4. 変えられないもの .....	40
5. 品性を変えてくださる今が正念場 .....	42
6. 私たちの模範、イエス様 .....	43
7. 私たちの弱さを思いやるイエス様 .....	44
8. 今イエス様に作り変えていただく .....	45

☆ 2003年8月8日～10日に行われた第9回SDA聴覚障害者友の会大会での、津嘉山繁先生（SDA赤城教会長老）のお話しを記録したものです。

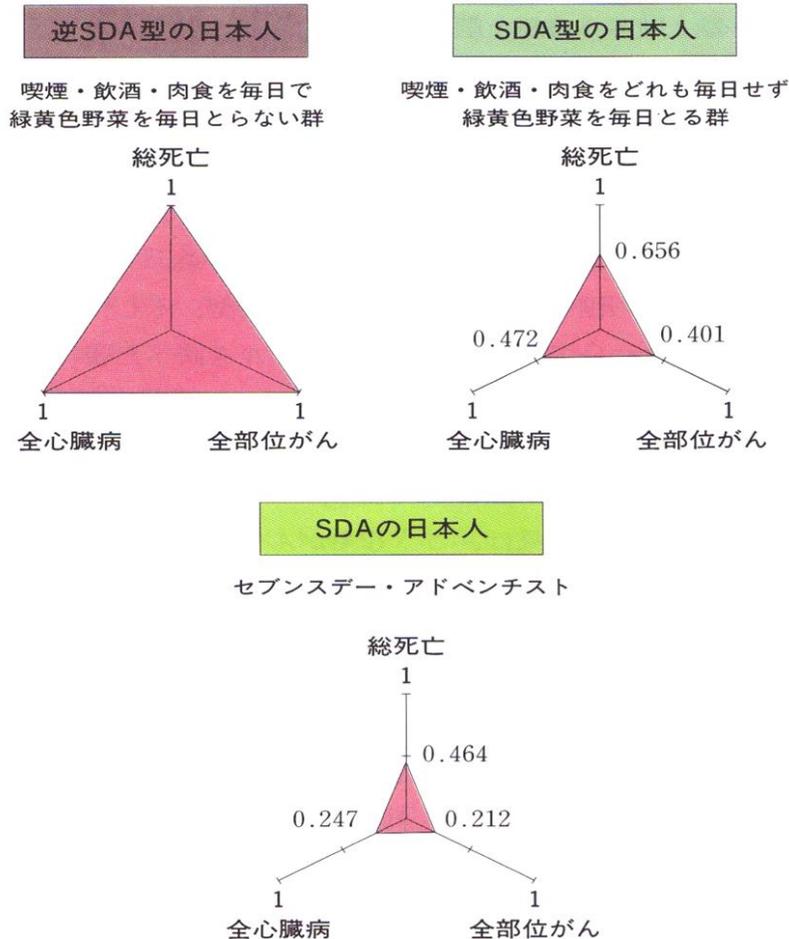
◎ イラストは津嘉山繁先生が書かれました。

# 地上から天国へ続くライフスタイル

## 【1】はじめに

### …SDA型ライフスタイル…

天国へ続くライフスタイルという題でお話をいたします。平山先生というお医者さんが、SDA型ライフスタイルという言葉を行きわたらせてくださいました。このSDA型ライフスタイルの大切さについて、平山先生はこのような表を科学書に紹介しておられました。



SDAでない人たちで、タバコが好きで、お酒も飲む、肉食を毎日して、  
お野菜などはあまり食べない。そういう人たちが死ぬ割合を（左側の図）、  
総死亡・心臓病になる人・ガンになる人を1としたなら、セブンスデー・ア  
ドベンチストはどうなるかが右側の図です。

これを見ると、SDAでない人を1とすると、SDAの人は総死亡0.4  
64（半分以下）、心臓病になる人はSDAの人は一般の人と比べ0.2  
47（4分の1）、ガンになる人はSDAの人は0.212ですから、5分の  
1となります。平山先生というSDAでないお医者さんがこのような表を見  
せて、「SDA型ライフスタイル」というものは素晴らしいのだということをお話  
してくれました。

でも、SDAの人はガンにならないかというとなる人はなる。SDAの  
人は死なないかというとなる人は死にます。ですから、このSDA型ライフ  
スタイルというものが、ただ長生きするためのものというのでは、あんまり  
意味がありません。

SDA型ライフスタイルが本当に素晴らしい祝福である理由は、それは、  
地上から天国へ続くライフスタイル…結局私たちがこの地上で生活するや  
り方は、そのまま天国に続くのだということで本当の意味があるし、祝福が  
あるわけです。

## …私たちの国籍は天にある…

聖書を見てみましょう。ピリピ人への手紙3章20節に

「しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・  
キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。」とあります。私  
たちの国籍はどこにありますか？日本ではありませんか。私たちは皆日本人  
です。国籍は日本にあります。でも、聖書を見ると私たちの国籍は天にある  
とあります。すなわち私たちは日本人でもあるし、天国人もあるわけです。

にじゅう  
二重国籍というわけです。私たちは日本人であると同時に天国の人間でもあります。それはどういうことかと言いますと、黙示録にこのように書かれています。

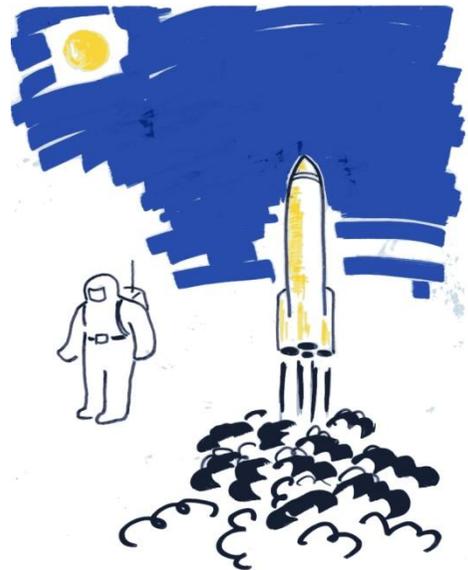
黙示録 1 ; 5, 6 に  
ちゅうじつ しょうにん どうじ さいしよ しょうおう  
「(1:5) また、忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、(1:6) わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかたに、世々限りなく栄光と権力とがあるように、アーメン。」とあります。

イエス様がわたしたちを罪から解放して、御国の民として下さったというわけです。イエス様が十字架にかかって、死んで下さるほどのことをして下さって、私たちが天国に連れて行って下さるようにして下さいました。それならば私たちはぜひ、天国に行くものになりたいと思います。

### じゅんび …天国に行く準備…

ばあい ひつよう  
では天国に行く場合に私たちはどんな準備が必要でしょうか。  
うちゅうひこうし  
宇宙飛行士のことを皆さん聞いたことがあると思います。宇宙飛行士が宇宙ロケットに乗ってお月様まで飛んで行く時は、いろいろな訓練を受けます。私たちは今群馬県に居ますけど、群馬県に向井千秋さんという宇宙飛行士が居ます。この人はご主人と一緒に生活することがあまりないくらいしょっちゅう訓練を受ける。そうでないとお月様のところに行けない。では私たちは天国に行くにはどんな訓練が必要でしょうか。

聖書にエノクという人がでてきます。



そうせいき

創世記5章の24節に、

「エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。」と書いてあります。エノクという人はこの地上で神とともに歩み、すなわち天国に行く歩みをしていたわけです。もう少し詳しく言いますと、「人類のあけぼの」上巻82頁に、このように書かれています。

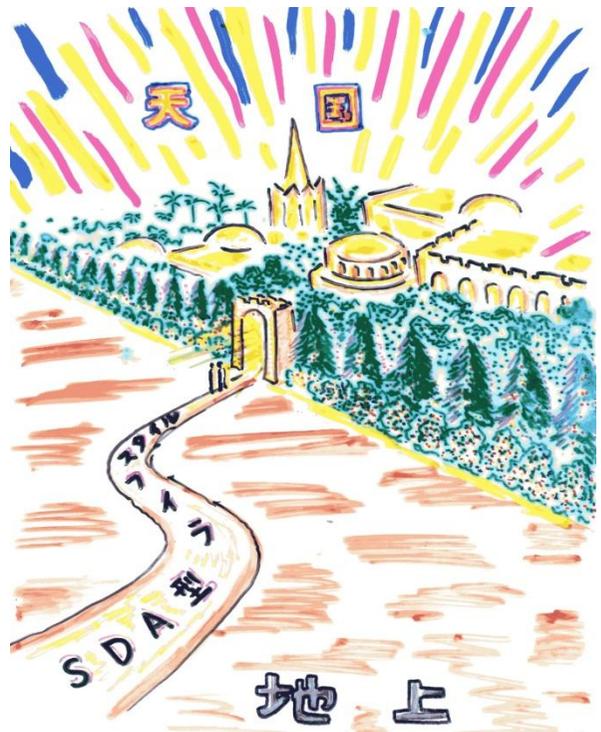
「彼は、日々密接な結合を熱望した。交わりはいよいよ深まっていき、ついに神は、彼をみもとにお受けになった。彼は、永遠の世界の門口に立っていた。彼と祝福にみちた国との距離はわずかに一歩であった。そして、門はあけられ、地上で長く続いた彼の神との歩みは続けられた。」

エノクはこの地上にいた。でもこの地上でエノクはいつも神様と一緒に歩んでいた。

そしてある日、彼は神様とともに歩いて、歩いて、歩いてあと一歩踏み込んだらそこはどこだったのでしょうか。そこは、天国だったのです。この地上を歩いていたはずなのに、あっ！！なんだろうと気がついてみたらそこは天国。これが地上から天国へ続く歩み方なのです。

私たちが、この地上からSDA型ライフスタイルの道を通って、そして天国に入る。エノクがそうしたように、私たちもそうするのだと書かれています。

「人類のあけぼの」上巻86頁に、「この預言者の清い品性は、キリスト再臨の時に『地からあがなわれ』る人々が到達しなければならない清い状態を



あらわしている。」とあります。結局このエノクがこの地上で歩んだ歩み方は、イエス様のご再臨を待ち望んでいる私たちのモデルだということです。ですから、私たちはこのエノクの例にならってこの地上での歩みを学び、そして、そのままこの地上でのライフスタイルがいつのまにか、天国に入ってしまう、天国でも続けられるということをおぼえたいと思います。

### …地上の生活は天上の生活の始まり…

「教育」の359頁に、「地上の生活は天上の生活の始まりである。」と書かれています。この地上での私たちの生き方は、もう天での生活の始まりだ。地上では私はこんな生き方をします。天国に行ったらまるっきり違う生活をします。そうではない。この地上で好きなことが天国でもそのまま続けられ、この地上で嫌だと思っただことが天国にはもうない。この地上の生活は、天国の生活の始まりだ。それなら私たちが今この地上でどんな生活をする、どんな生き方をする、何が好きなのか、なにが嫌いなのか、それはとっても大事なことです。それがそのまま天国に続くのです。そういう意味で地上から天国へ続くライフスタイル、これを一緒に勉強したいと思います。



## 【2】衣服について

### …服装で品性が判断される…

それでは今からライフスタイルの一つ、衣類、衣服のことについて、考えてみたいと思います。

私たちは天国に行くのに何か特別な衣服が必要なのでしょうか。いったい天国に行くのに衣服は関係あるのでしょうか。「キリストの実物教訓」307頁を見てみましょう。「神のかたちにかたどって形成された品性は、この世から来たるべき世界に持って行ける唯一の宝である。」天国に持って行けるのは何ですか。品性です。天国にスーツケースを持って行く必要はないようです。では我々は衣服の問題についてどのようなことが必要なのか。天国に行く準備として考えたみたいと思います。



「教育」294頁には「服装によってその人の品性が判断される。洗練された趣味や教養のある知性は、単純で似つかわしい服装の選択にあらわされる。」とあります。ここで言われているのは、私たちは服装によって、その人がどんな人間かがわかるというわけです。

どんな服装があるか見てみましょう。いろんな服装や飾り物があり、それを見てその人の品性、その人がどういう人間である

だいたいはんだん                      そうじ  
かが大体判断できます。掃除をする時に着る洋服、作業をする時の洋服、  
出かけて行く時の服装、冬物、夏に着るもの、普段着、又結婚式の時に着る  
ものなどあります。

その時その時の必要な洋服があります。

### …天国での服装…

では天国に行くにあたってはどのような服装が必要なのか、考えてみたい  
と思います。まず天国ではいったいどんな衣服を着ているのでしょうか。(マ  
タイ28：1～4)ここに天使が現れたと書かれています。

「…主の使つかいが天から下って、そこにきて石をわきへころがし、その上にす  
わったからである。その姿すがたはいなずまのように輝かがやき、その衣ころもは雪のよう  
に真白まっしろであった。」とあります。天国に行くと、いなずまのように輝き、雪  
のように真白な天使たちを見るようです。では、アダムとエバが罪を犯す前  
にどんな着物を着ていたのでしょうか。

「生き残る人々」52頁に「…彼ら（アダムとエバ）は、それまで身体に衣をまとわ  
ないで、天使たちのように光におおわれて  
いた…」とあります。ですから今我々が着  
ているようなこんな洋服は天国では着ない。  
やぶ  
破けたり、だんだんすそが切れたり、ほこ  
ろびてしまうような服は着ません。アダム  
とエバは栄光えいこうの着物におおわれていた。

ですから、私たちは天国に行くときに、  
地上から持って行くものはいらぬのです。  
では天国を目標めざしているものとして、この  
地上でどんな服装ふくそうをしたら良いのでしょうか。なんといっても私たちは、イ  
エス様もはんの模範を学ぶ必要があります。



## …イエス様の服装…

イエス様がどういう服装をしていたかイザヤ書を見てみましょう。

(イザヤ 53 : 2) 「彼にはわれわれの見るべき姿がなく、<sup>いげん</sup> 威厳もなく、われわれの慕<sup>した</sup>うべき美<sup>うつく</sup>しさもない」(口語訳)

「彼には、私たちが見とれるような姿もなく、<sup>かがや</sup> 輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。」(新改訳) とあります。

イエス様は天国にいる間は栄光の衣<sup>ころも</sup>におおわれていた。しかし、この地上におられるときには、私たちが見とれるような姿ではなかった。輝きもなかった。私たちが慕うような見ばえもなかった。あーいいなー!、すばらしいなー! というようなものではなかったのです。イエス様のお姿は、非常に簡単な衣服を着ていらっしゃる。肩から下げているのは飾りではなく、夜になると<sup>もうふ</sup> 毛布になる簡単なもので、自分が生きていくのに必要なものでした。

この衣服は腰を帯<sup>おび</sup>でしめるので、米や麦<sup>こくるい</sup>など穀類を買<sup>ふところ</sup>うと、懐<sup>かた</sup>に入れていたようです。大祭司<sup>だいさいし</sup>とか教会の先生たちはその立派な服装<sup>りっぱ</sup>で尊敬<sup>そんけい</sup>された。しかし、イエス様はこのような格好<sup>かっこう</sup>ですから見栄え<sup>みば</sup>がな

いわけです。でも、イエス様はこのようにごく平凡<sup>へいぼん</sup>なそして便利<sup>べんり</sup>なものを着ておられた。そこで私たちクリスチャン、天国を目指<sup>めざ</sup>している者として、天国で栄光の衣をいただく者として、イエス様の模範<sup>もはん</sup>にならう者として、どうでなければいけないかを聖書は教えています。



## …聖書の教え…

(Iテモテ2：9～10)を見てみましょう。男はあんまり衣服かんしんに関心がないですけど、女は衣類てきどに関心があるので、聖書の中にも女の人のことについて特に書いています。「…女はつつましい身つつしなりをし、適度に慎み深く身かざを飾るべきであって、髪かみを編んだり、金や真珠しんじゆをつけたり、高価な着物を着たりしてはいけない。」とあります。質素しっそな目立たない、けばけばしくない、簡単なものでほどよく身を飾るのです。

今日こちらにきて安心して言えますが、教会いでこんなことをいったら、教会員は教会に来なくなってしまふかもしれませんが、今では耳飾りみみかざ、ネックレスゆびわ、指輪あは当たり前まえです。

どんな高価な宝石いしようばこの箱や衣装箱ころもを持っていても、それは天国へ持って行けません。天国では栄光の衣あたが与えられます。イエス様からの飾りかざを頂きます。私たちはこの世から持ってゆくものは何もない。そういうもので飾ることに関心を持たないように気をつけなければなりません。そういうものが私たちの信仰を、天国にゆく希望を、そういう準備じやまをだんだん邪魔してしまうのです。

(Iペテロ3：3，4)に「あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面がいめんの飾りではなく、かくれた内なる人にゆうわ、柔和で、しとやかな靈れいという朽ちることのない飾りくを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊とうといものである。」とあります。

ここで言っているのは、外の飾りではなく、私たちの内なるもの、私たちの品性、心を飾る、そういうことに関心を持ちましょうということです。色ぬを塗ることによって、外の顔かたちは綺麗きれいになるかもしれませんが、どんな高価な化粧品けしょうひんを塗っても、心は綺麗になりません。天国へ持って行けるのは品性だけです。品性をみがくことをいつも心がけたいと思います。

## …「家庭の教育」より…

「家庭の教育」452頁です。「私たちの衣服は地味で単純でなければならぬが、質の<sup>しつ</sup>良い、色の<sup>にあ</sup>似合った、役に立つもの…それは、見えのためよりも、むしろ、丈夫な<sup>じょうぶ</sup>ものを選び、保温<sup>えら</sup>と身体<sup>ほおん</sup>を適切<sup>てきせつ</sup>に保護するものでなければならない。」とあります。できるだけ簡単なもの、シンプルなもの、目立たないことが大事です。

人と会って、あの人どんなものを着ていたかなあ！と思ひ出せないように。あんなすごいものを着ていたということから、だんだん<sup>わだい</sup>話題が増えてゆくようにならないこと。ですから、どんなものを着ていたか思ひ出せないものが、簡単な<sup>じみ</sup>地味なものといえるでしょう。

また、質の良いものとありました。贅<sup>ぜいたく</sup>沢にお金をつかわないといっても、ただ安いものを買っていたら良くないことがあります。お金は大事にしますが、良いものを買った方が経済的なこともあると思います。

また、私たちの体によいものを着ましょう。私たちの衣服は健康のために着るものです。見せるためのものでなくて、健康のために<sup>もめん</sup>どういふのが必要かを考えたらよいでしょう。その意味ではナイロンより、木綿が良いでしょうね。体も健康で、心も健康で天国へ行く準備の毎日ということになります。

「家庭の教育」444頁です。「健康の原則にかなって…この時代にふさわしく、質素な<sup>しっそ</sup>装<sup>よそお</sup>いをし、衣類のことで心をとられることがないようにしてください。」その時代にあった服装が大事です。

私はアメリカに住んでいたことがありました。あるグループと一緒にピクニックに行ったのですが、女の人は長い髪<sup>かみ</sup>に長い衣類で、男の人はズボンつりをして、そこにいる人が皆私<sup>ふ</sup>たちを振り返<sup>かえ</sup>って見るので、はずかしかったです。一緒に歩くのが嫌<sup>いや</sup>でした。その時代にふさわしく、目立たないことが必要だと思いました。

「家庭教育」445頁です。「飾<sup>かざ</sup>りすぎたり、あるいはだらしく不精<sup>ぶしょう</sup>な

服装をして、人々の話題わだいになるようなことをすべきではありません。」とにかく、人と変わった服装は目立ちます。私たちは目立たない服装、みんなの話題をさらうような、注意を引くような服装ではなく、本当に質素な、目立たない、そして健康的な、クリスチャンらしい服装を心がけなければいけないと思います。またその人その人に似につかわしいことが大事だと思います。

申命記 22 章 5 節に、男は女の服装をしてはいけない。女は男の服装をしてはいけない、と書いてあります。男は男らしく、女は女らしく、これは大事なことです。これは聖書の教えです。本当に男か女かわからない人が多くなっている。そういう事から犯罪ふが増え広がっている。気をつけなければなりません。

この絵のような、  
かざ飾りとだらしなさ  
があります。飾りすぎ  
るこのような服装  
は良くないです。今  
の時代にはふさわし  
くないし、そしてこ  
のように締め付ける  
と健康に良くないで  
す。女の人かつこうは格好よ



く見せようとして、きついのふとめを着ないようにしてください。健康に良くありません。細い人は細いなりに、太目の人は太めなりにそれぞれ美しさがあると思ほかいます。他の人をまねる必要はありません。

健康で自分らしくありたいと思ぜんぜんいます。又全然かまわなかつこういでこんなだらしない格好も良くありません。やはりイエス様の子供として天国を目指めざしている者として、天国に行く SDA のライフスタイルを実践じっせんしている者として、こざつぱりと綺麗きれいに、あまり高価こうかのものでなく、そしてまた、みっともない、

みぐる  
見苦しい服装も良くないと思います。今わざと破やぶいて着る人がいるようです  
がそんなまねはほしくないほうが良いと思います。

私たちはキリスト者として、本当にふさわしいことを心がけている時に、  
私たちは品性もだんだんイエス様に似ていくわけです。そして、着ているもの  
が、私たちの品性を形かたちづく作ります。ですから、私たちは、衣服をないがし  
ろにすることなく、かまわない何でもいいということのないように、気をく  
ばって、心をくばってイエス様を正しく証しする者になりたいと思います。

やがて私たちは、天国に行ったとき栄光の衣を頂くのです。今ここでは頂  
くことはできないでしょう。でも今我々が本当に単純な、質素な目立たない、  
そして健康的な、イエス様の子供らしい、天国に向かって歩んでいる者らし  
い服装をすることによって、品性が磨みがかれ、いつの日かイエス様から栄光の  
衣を頂いてイエス様の祝福にあずかる者になれると思います。そういう日かた  
がくるまで、天国を目指めざしている者として、ふさわしい衣服で身を固めて、天  
国に行く準備じゅんびをしたいと思います。

### 【3】 食事について

#### …天国では何を食べる…

皆さんお昼は簡単ひる かんたんなお食事でしたが、夕ご飯には又おいしいのができると  
思いますが、お昼にあんまりご馳走ちそうを食べますと、今の時間は眠くて話も聞  
けませんからちょうどよかったと思います。

これからお食事の問題について考えてみたいと思います。いつも言ってい  
ますように、私たちは地上から天国へのライフスタイルということで学んで  
いますけれど、食事もこの天国へのライフスタイルの一つとして考えてみた  
いと思います。

これも「教育」の359頁の言葉を見ますと、「地上の生活は天上の生活の

始まりである」とあります。今われわれが食べる食べ物はできるだけ天国でも食べるものであるようにしたい、ということです。では天国では何を食べると思われますか。だれか知っていますか。「十二種の木の実はです」(小林さん)

それでは小林さんの言ったことを聖書、証しの手紙で見ましょう。先ず黙示録 22 章の 1 節に「御使いはまた、水晶のように輝いているいのちの水の川をわたしに見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があって、十二種の実を結び、その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。」とあります。

つぎにエゼキエル書 47 章の 12 節に「川のかたわら、その岸のこなたななたに、食物となる各種の木が育つ。その葉は枯れず、その実は絶えず月ごとに新しい実がなる。これはその水が聖所から流れ出るからである。その実は食用に供せられ、その葉は薬となる」。ここにもいのちの川が流れてきて、そのそばにいろんな木が生え、いろんな種類の果物がある。と書いてあります。

つぎにイザヤ書の 65 章 17 節と 21 節を見てみましょう。

「見よ、わたしは新しい天と、新しい地とを創造する。」「彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。」ここにも天国での食べものが紹介されています。もう一つの聖句を見てみましょう。詩篇 78 篇 24, 25 節です。「彼らの上にマナを降らせて食べさせ、天の穀物を彼らに与えられた。人は天使のパンを食べた。神は彼らに食物をおくって飽き足らせられた」。ここでマナは天の穀物とあります。また天使のパンと書かれているところ



もあります。こういうものが天での食べものだと聖書には出てきます。

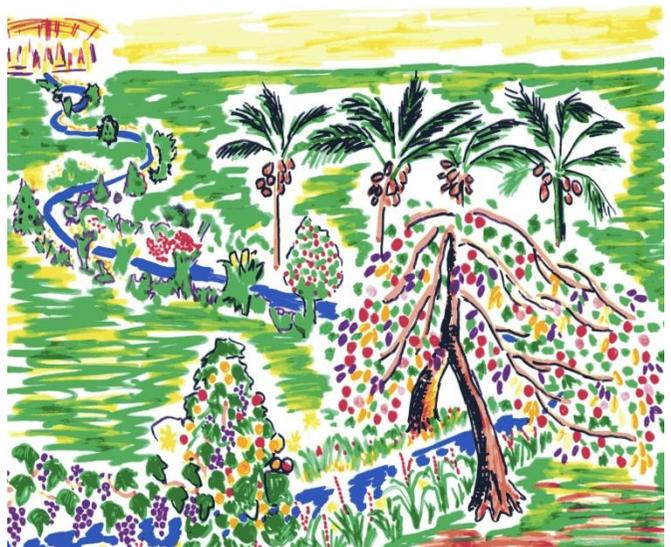
では証しの書“初代文集”70頁ではこのように書かれています。「…わたしは純銀のテーブルを見た。それは、何マイルもあるものであった。しかし、われわれの目は、それをずっと見渡すことができた。命の木の実、マナ、あめんどう（アーモンド）、いちじく、ざくろ、ぶどう、その他多くの果物をわたしは見た。」ここを見るといろいろな果物がでています。そして、銀のテーブル、天国には銀のテーブルが置かれていて、その上に命の木の実、マナ、いろいろな果物が並べられ、それがながーいテーブルで何マイル、何キロもずっと続いていて、でもこちらから向うまでちゃんと見る事ができた、ということです。このようにして天国では主に果物を食べる、あるいはマナ、天の穀物、というものが天国で食べるもののようです。

それではもう一つの、初代文集465頁を見てみましょう。

「それからわたしは、イエスが民をいのちの木につれて行かれるのを見た。もう一度、イエスのやさしいお声が、これまで人間の耳に聞こえたどんな音楽の調べよりも美しく聞こえた。『この木の葉は、人々をいやすためにある。だれでもそれを食べなさい』とイエスはおっしゃった。いのちの木にはたいそう美しい実がなっていた。聖徒たちはそれを自由に食べる事ができた。」

### …いのちの木の実…

このようにして、いのちの木の実を食べるということですが、これは左の上のほうに天国（都）があり、そこからいのちの川が流れてきて、その川沿いにいろいろな種類の木の実がなっている。そこで一番、目だつのはいのちの木の



実です。いのちの木の実は岸のこちら側に根があり、向こう側にも根がある。それが二本の木かと思ったら上のほうでは一つになっている。そしてそこに十二種類のいろんな木の実がなっている、というわけです。

このようにして聖書と証しあかの書ふみを見ますと、天国ではいろんな物を食べるのかなということが少し分りますね。でも多分十分には分らないと思います。天国に行ったときに、私たちがびっくりするようないろんな美味おいしいものがあると思いますが、とにかくそのようなものが紹しょう介かいされております。

では、天国にはないと思われる、天国ではこんなことはしないだろうなというものは、どういうものでしょうか。

これは、はっきり書いてあるわけではないですけど、煮にたり炊たいたりはしないのではないかなというような気がする。果物中心ですから、そんなに煮炊にたきはしないのじゃないか。火が燃もえるということは、あるものが燃えてなくなってしまうことですから、あまり煮炊にたきして物を食べることはしないのじゃないかと私は考えています。でも、もしどこかで煮炊にたきして食べるということが書いてあるのがあったら教えて下さい。

### …肉食について…

それから次に考えられるのは、肉食で、お肉の類は食べないだろうなと思います。肉を食べるということは、動物を殺すことですから。イエス様しょうちょうを象しょう徴ていして動物をいつでも聖所では殺していました。でもイエス様が死んでくださいましたから、血を流してくださいましたから、もうこれ以上血を流す必要はありません。ですから、天国では、多分動物を殺してその肉を食べる、殺された動物、死んだ動物の肉を食べること、これは天国ではやらないだろうなと思います。

私が沖縄に住んでいたころなのですが、出張で東京に来てお土産みやげを買って帰ったのです。そして、うちの教会の信者さんの子供さんにお土産みやげを上げたんです。“ひよこ”というお菓子かしでした。

その子が紙をあけるとなから可愛いひよこのお菓子が出てきたのです。そのひよこが可愛いんですよ。その子が喜んで食べるかと思って見ていましたが、その子が可哀想だから食べないというのです。

私たちはひよこの形かたちをしていても食べちゃうんですよ。情けないですね。子供は純粋じゆんすいです。お菓子なのですよ。でもひよこの形をしていたので食べないのです。

天国に行って鶏たの首をしめて炊いて、“ああおいしいね”と言って食べますか。首をひねって、動物を殺して、料理して食べる、これは罪なに慣れてしまった人間のやることです。天国に行ったら、きっとそういうことはしないんじゃないかとわたしは思います。

でも一つ私に分らないことがある。皆さん誰か知っていたら教えてほしいんです。ルカによる福音書の24章40～43節にこんなことが書いてある。イエス様が十字架にかかってよみがえったあと、天国に戻る状態もど じょうたいの時の出来事できごとです。そのイエス様についてこのように書かれている。

「こう言って、手と足とをお見せになった。彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議ふしぎに思っていると、イエスが「ここに何か食べ物た ものがあるか」と言われた。彼らが焼いた魚の一きれをさしあげると、イエスはそれを取って、みんなの前で食べられた。」とあります。イエス様は焼いた魚を食べたのです。

この地上いに居るときはユダヤの人はお魚をよく食べていました。ですからイエス様もお魚を食べたことはわかるのですが、よみがえったあと、もう天国に行く体からだをもったイエス様がお魚を食べたというのはどういうことでしょうか。魚も生き物ですよ。このことについて何か説明ありませんか。

私たち天国に行くものは、肉食はしないんじゃないかと言いましたが、魚も肉食ですよ。なぜかなーとお祈りしながらいろいろ調しらべるのですがまだ分かりません。分った人がいたら是非ぜひ教えて下さい。

さいしょくちゆうしん  
…菜食中心…

とにかく天国での食生活は菜食中心だと思います。それならこの地上で私たちは、やはり菜食をするように心がけるべきではないでしょうか。地上に居る間はお肉が大好き、天国ではお肉が食べられないから、今のうちにお肉をいっぱい食べておこう、と言って地上ではお肉が大好き、天国に行ったらもうお肉は嫌い、天国に行ったら菜食、そうなるでしょうか。

何べんも言っているようにこの地上の生活は天の生活の始まりなんです。今は好きで天国にいったら嫌いになる。今は嫌いで天国に行ったら好きになる。そんなことではない。今好きなものは天国に行っても好きです。今嫌いなものは天国に行っても嫌いなはずです。ですからわれわれはできるだけ菜食のおいしさに慣れておかないといけません。

ホワイト夫人は最初はお肉が大好きで野菜だけでは駄目だったそうです。それでホワイト夫人も神様から教えられて聖書を学んで、菜食にしないといけない、私はお肉が好きだったけれど、菜食が好きにならなければいけない、と思って野菜を食べるようにする。ところがテーブルの上に野菜を置いても、食べる気がしないのだそうです。お肉が好きだったから。

それでホワイト夫人も「神様助けて下さい。わたしはお肉がすきなのです。野菜は好きじゃないのです。でも神様が、私たちの食べ物は菜食がよいと教えて下さったのです。お野菜の料理を出しましたが食べる気がしません。食欲が出てきません。神様助けてください。」とホワイト夫人も本当に菜食になるために努力したそうです。

天国で私たちが食べるであろうものを、今この地上で好きになるために努力しなければいけない。神様はきっと助けてくださる。そのような食生活を今、心がけましょう。そしてできるだけ、自然のままで食べる。あまりごたごた味を加えないで。今の食べ物の袋の裏のほうを見ると、何が入っているかという、カタカナの名前がいっぱい書かれています。いろんな味をつけて、こってりした味を、複雑な味をだして、それをみんな喜んで食べる。でもで

きるだけ自然の味を楽しむようにしたいと思います。

### …味覚は変わる…

皆さんの中で、もうお亡くなりになられましたが、安居堅作先生をご存知の方がおられると思います。安居先生がある日こんなお話しをされました。

あの先生は年取られてから糖尿病にかかっていた。先生がアメリカにいらした時に、ウィーマーという病院と学校があり、そこでニュースタートの健康法がなされていました。そこには糖尿病の人とか、ガンの人とか、いろんな重い病気の人があるのです。そこでニュースタートの健康法を教えるのです。

そういう病気の人たちのためにどんな食事を出したかということ、砂糖はいっさい使わない。それから油も使わない。お塩も使わない。患者さんのためにはそういう治療が必要なのですね。それで安居先生もウィーマーで一週間ほど食事を食べたそうです。

そうしたらどうでしょうか。砂糖、油、塩の全然使われていない料理、おいしいと思いますか。安居先生はこんなのはもう食べられないと思ったそうです。味も塩つけもない、まずい、まずい、こんなのどうしようもないと、先生は悲しくて、でも病気をなおすため仕方なくそれを食べたそうです。一日食べてまずいなー、二日目全然おいしくない。三日目も美味しくない。先生はこれからどうなるのか心配したそうです。

しかし、三日目をすぎた頃から、「あれ、美味しいじゃないか」と思ったそうです。「昨日出たものだけど昨日はまずかったけど今日は美味しい」四日目から五日目、六日目と美味しいと思って食べたそうです。本当においしかったそうです。あー、お野菜のなかにこんな味があったのか。この食べものにこんな美味しさがあったのか、びっくりしたそうです。

今までいつも砂糖で味付けて、醤油をかけて、油でいためて、みりんを使って、だしの素を入れて、そうしていつも食べていますから、そういう刺激

がないと美味しく感じなかった。でもそういうものを全部取り除いて、そのままのお野菜を食べたときに、お野菜のなかに含まれている美味しさというものが分ってきた。人間の味覚、これは習慣です。

ですから教育することができます。これは病気の人でしたから完全な砂糖抜き、油抜き、塩抜きだったわけですがけれども、病気でない人はそんなに全部なくする必要はないでしょう。でも心がけてほしいことは、できるだけ自然の美味しさを味わえるように、それが分るように、ですからお野菜を食べるにしても、あんまりマヨネーズをいっぱい入れたり、ケチャップをかけたり、お塩をいっぱいかけたり、味をつけすぎないように、できるだけ単純な味を楽しむようにしたいと思います。

私がアメリカに行って教えられたことの一つには、よくブロッコリー、カリフラワーなどを生で食べるのです。それまでは茹でてマヨネーズなどをつけて食べたんです。でもアメリカでは生でした。やはり食べなれたら美味しいんです。それ以来生で食べるようになりましたけれど、そのように私たちの味覚は教育することができる。そうしたら今まではまずいと思っていたものが、美味しくなる。そのようになります。ですからできるだけ、自然のままに食べるようにしたいと思います。

## か …噛むこと…

次に大事なこととして、よく噛むことを覚えたいと思います。実は、聴障者のために去年赤城山学園で修養会をする予定で、この話は皆さんのためにその時に赤城山学園でする予定でした。

それで赤城山学園で、この話の時にお粥とご飯を皆さんに食べてもらおうと思っていました。皆さんに先ずお粥を食べてもらう。お粥を食べたら何回ぐらい噛むか、数えてもらいます。そのあと、今度は玄米のご飯を食べてもらって、何回噛んで飲み込んだか、実際にやってもらいたかった。どうでしょう。お粥を口に入れたらどの位噛むと思いますか。普通はお粥を口に入

れたらとたんになくなっちゃうんです。せいぜい五、六回です。でも玄米げんまいのご飯そうとうかは相当噛みます。私もやはり80回、90回噛みますね。

それがごく自然になる。噛むということはとても大事なことです。パクパクと噛まないで口に入れてしまうと、満足まんぞくかん感がない。満足感がないからいくらでも食べる。ですから早食はやぐいの人は大食おおぐいです。早く食べる人はたくさん食べる。満足感わは、よく噛んで時間がたったときに、じわーっと沸いてくるものなんです。満足感わが沸くまで待たなくて食べていたら、いくら食べてもお腹一杯なかいっぱいにならない。ですから、ゆっくり噛んで、お粥あまでもよく噛んで食べると満足感こうかが与えられる。ですから食べ過ぎこうかないという効果があります。

それから、よく噛むことによってアミラーゼしょうかこうそという消化酵素つぼができる。唾つばです。アミラーゼこくもつが、食べた穀物でんぶん、澱粉まと混ざあまったら、これが甘くなる。ですからご飯はよく噛んで食べると甘く感じませんか。本当に美味しい甘味です。消化酵素しょうかこうそが澱粉と混ざって甘い味を出してくれる。

ですから、こうして穀物を本当に美味しく食べることができる、また唾液だえきが出ることによってこれが消化を助ける。この唾液と混ぜいないで食べものを胃いに送り込んだら、消化酵素が不足していぶくるますので、お腹の中に入れてからそれを消化するのに胃袋が苦勞する。でもよく噛んで唾液と混ぜていたら、消化するのを助けてくれます。

それから今度はよく噛むことによって、あごが動きます。あごが動くと、ここに通っている脳のうにいく血管けっかんを刺激しげきします。その結果脳のうの働きが良くなる、という祝福があります。

それから唾液ふくの中に含まれている酵素こうそはガンおさを抑える作用があるそうです。ですから食べるときによく噛んで、唾液がよく出ていたら、ガンを防ぐ効果がある、と言われてます。

わたしたちはできるだけ噛む習慣を、そのためには柔らかいものではなくて、できるだけ固めのものを食べることによって、よく噛む習慣が身につくと思います。

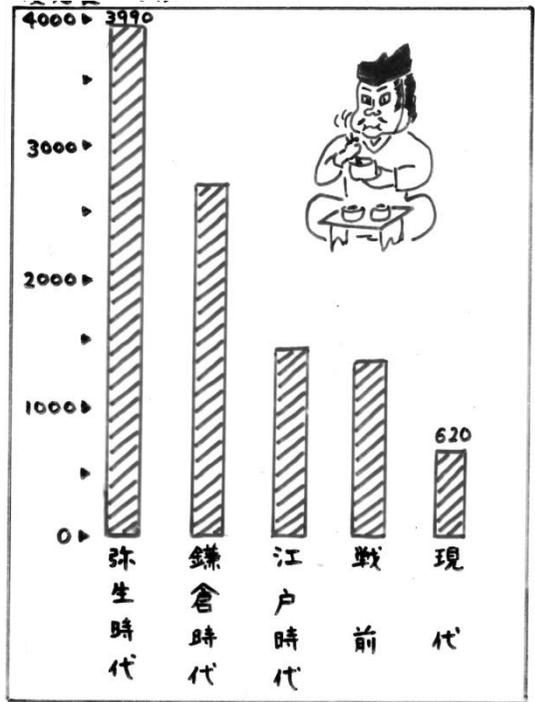
じょうもうしんぶん

これは、群馬県の上毛新聞に出ている記事ですけれど、昔の人と今の人の噛む回数を比べてみたのです。そうしたら、弥生時代の人たちは、一食あたりだいたい3,990回噛んでいたようです。弥生時代に食べていた食物を今の人たちが噛んでみると、3,

990回ぐらい噛まないといふと飲み込めない。多分30分ぐらいの間にそのぐらい噛んで食べていただろうといわれている。

かまくらじだい

それが鎌倉時代になると、その時代の食物を噛んでみると、2,700~3,000回ぐらいで喉に落ちてしまう。江戸時代になると1,400回ぐらいしか噛まない。だんだん食べものが柔らかくなってきている。繊維がなくなっている。食べやすくなってきている。戦前の人たちは1,300回ぐらいしか噛



(上毛新聞 平成14年4月9日号より)

おおむかし

まないと。ところが現代の人たちは一食620回しか噛んでいない。大昔の人は4,000回噛んでいたのに、今の人は620回しか噛まない。

はやぐ まるの ひけんこうてき

いかに早食いで丸呑みで非健康的かということです。これではガンになるのも当たり前、食べ過ぎるのも当たり前、病気になるのも当たり前、頭がすっきりしなくなるのも当たり前、ということになります。

私の知っている友達が韓国にいます。この友だちが面白い食事をしているのです。何を食べているかという、玄米とか、粟とか、稗とか、玉蜀黍とか、そういう穀類を料理して、それを乾かして硬くなったものを炒って、ポリポリ食べている人たちがいる。それで、病気だった人がその食事をするようになって、健康になった。私もそれを食べましたが固いのです。90回、

100回<sup>か</sup>噛まないと飲み込めない。日本に帰ってから取り寄せて食べたのですが、<sup>かぶ</sup>歯に被せたものが取れてしまいました。

<sup>いらい</sup>それ以来やめましたけれど、でもそれを食べながらこんなことを考えました。

### …生きるために食べる…

皆さん、こんな言葉を聞いたことはありませんか。私たちは食べるために生きているのだろうか、それとも生きるために食べているのだろうか。私たちは、いつも自分に言い聞かせ、私は食べるために生きるのではない、私は生きるために食べるのだ、ということを考えたら、料理にも<sup>じゅんすい</sup>いろいろな違いが出てくる。もっと<sup>じゅんすい</sup>純粋な、もっと健康的な食生活になるのではないかなと思いました。

ですから皆さんに心からお<sup>すす</sup>勧めしたいことは、どうぞ本当に天国に行く準備をしている者として、この地上から天国に続くライフスタイル<sup>お</sup>を追い求めている者として、本当に<sup>まじめ</sup>真面目に努力していただきたい。そうするならばきっと神様が皆さんを祝福して下さると思います。

## 【4】住まいについて

これから<sup>さいご</sup>最後のお勉強になりますが、この地上から天国へ続くライフスタイルの中でわれわれは<sup>す</sup>住まいについてどのように考えるか、教育の359頁の言葉をまた読みましょう。「地上の生活は天上の生活の<sup>はじ</sup>始まりである」私たちの<sup>もんだい</sup>住まいの問題についても、天国を<sup>めざ</sup>目指している者としてこの地上でどういう生き方をすべきか考えてみたいと思います。

その  
…エデンの園…

さいしよ

最初に、アダムとエバがエデンの園にいた時に、どういう住まい、どうい  
うことをしていたかを聖書から見てみたいと思います。

そうせいき

しょう

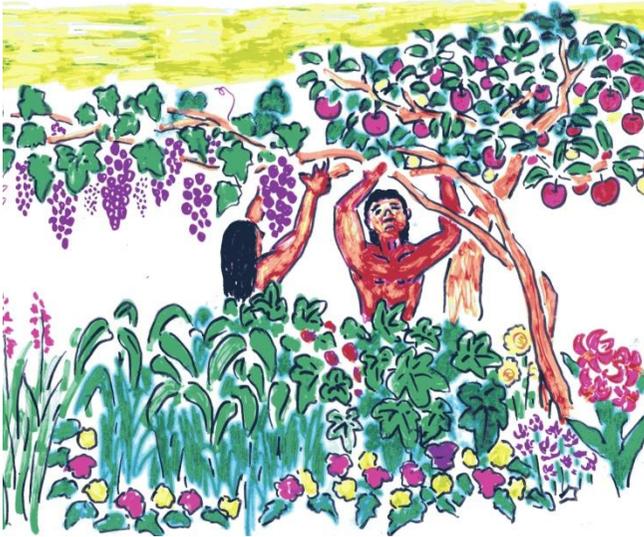
せつ

つ

い

お

創世記 2 章 15 節「主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、こ  
れを耕させ、これを守らせられた。」とあります。アダムとエバが住んだと  
ころは、エデンの園で、エデンの園を耕して、そこに住まいを得ていた。



けいべつ

くらい農業をする人は軽蔑されます。頭のいい人はネクタイをしめてホワイト  
トカラーで車に乗って、クーラーのきいた部屋でいい仕事をする。頭の悪い  
人はブルーカラー、菜っ葉服なばふくを着て、土を耕すたがやのは最低さいていの仕事という考え  
がありました。

さいこう

しかし、農業は神様が人間に祝福として最高の職業として与えてくださった  
ものです。でもその神様が与えてくださった祝福、それを人間は嫌うよう  
になってしまった。

絵を書いてみましたけれど、  
私の想像そうぞうですからそうでな  
いかも知れませんが、栄光に  
えいこう  
つつまれたアダムとエバは、  
エデンの園で美しい環境かんきょうが  
与えられ、そこで果物の木の  
せわ  
世話をしていたと思われま  
す。農業は神様が祝福として人間  
に与えてくださった。今は  
どんびやくしょう  
土百姓どひやくしょうと言う言葉もある

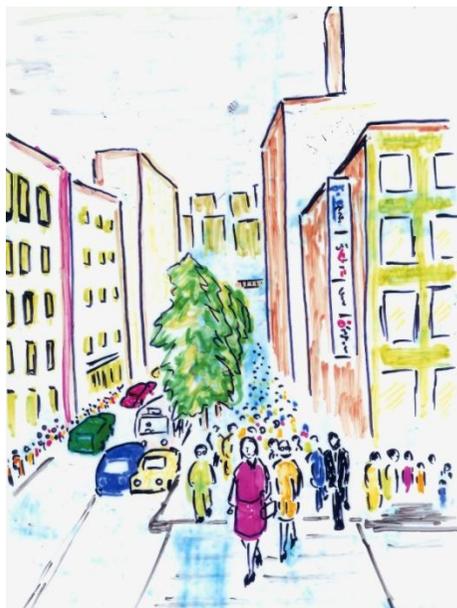
とかい  
…都会の生活…

それで神様にそむいた者はどういう道を選んだか。神様のもとを離れた人が町を作る。創世記4章16, 17節に、罪を犯して神様にそむいたカインは、「主の前を去って、エデンの東、ノドの地に住んだ。カインはその妻を知った。彼女はみごもつてエノクを産んだ。カインは町を建て、その町の名をその子の名にしたがって、エノクと名づけた。」とあります。

神様のもとを離れたカインが町を建てたのです。神様は人間が田舎で、自然に囲まれて、そこで農業をしながら幸せな生活を送ってほしかった。でもその神様の素晴らしい祝福を拒んで神様のいうことをきかない人が、町を立てて、そして町の中で生活するようになったわけです。

多くの人が町に住んでいるわけですが、都会というところはもう建物がいっぱいです。そして土は殆ど見られません。町の中にも木を植えて、その根にはわず

かの土がありますけれど、ほとんど土は姿を消して、アスファルトやコンクリートで全部敷き詰められ、そして、人間が築き上げたものが周りを囲んでいます。ですからこんな町の中に住んでいたら、神様がどんなに素晴らしいお方か、私たちは神様によって生かされているのだ、という思いではなくて、もう私たちはお金をもうけないとこんな大きな土地も持てない、こんな大きな家にも住めない。町に行くといろんな素晴らしい物がたくさんありますね。金がないとこれも買えない。金を儲けなければいけない。もうお金、お金、お金。そして町ではどうですか。お先にどうぞなんて言っていたら、自分はいつまでも電車に乗れません。遅れてしまいます。それこそ皆を掻き分けて



でも、自分がサーッと飛び込んで席をとらないと、いつまでも立ったままです。都会にいる人間の心も荒むわけです。

神様は私たちが都会の中でそのようにして人と競争しながら、そしてお金、お金、お金で生活するのではなく、本当に神様が私たちが産ませてくださって、生かして下さって、そして神様が創ってくださった自然界の中で幸せに生きるようにとお望みになっていらっしゃいます。

ですから神様を信じた人たちも、その神様の教えに従って田舎に住んでいたのです。

### いなか …田舎に住む…

アドベンチストホーム138頁を見てみましょう。

「アブラハム、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ダビデ、エリシャ…こうした人々の中で何人が田舎の家庭で育つたであろうか。彼らは贅沢を知らなかった。また青年期を娯楽に費やさず、多くの貧困と苦難と戦わねばならなかった。」

各時代の神の民は、田舎で本当に神様の守りを日々感じながら、神様に生かされていることを感じながら生きたのです。

私も赤城山学園に住んで、もう20年になりますけれど、土に親しんでいてつくづく思います。本当に私たちは神様によって生かされている。たとえば、玉蜀黍の種を畑にまきます。そしてその後私たちは何をしているかというと、種をまいて家に帰って、自分の仕事をしたり、いろんなことをやっている。何日かして畑に行くと芽が出た。良かった。家に帰る。そして夜には神様が雨を降らせて作物は成長します。

しばらくたって、行ってみます。大きくなっています。でもまわりに草も生えています。草に覆われてはいけないと、草を取ります。草を取って家に帰って寝ます。そしてまたしばらくして行くと、もう大きくなって、実が実ったぞ。しめしめ。やがて時がきて実が熟したかなと取って見たら、本当に一粒植えたはずなのに何倍になっていますか。いくつぐらいあると思います

か。数えてみたら、300から400粒あるんです。

本当に増える。そして私たちはそういうものを見る時に、わたしが玉蜀黍を作ったといえますか。いえませんよ、<sup>は</sup>恥ずかしくって。わたしが作ったんじゃない。わたしは確かに種は蒔いた。草は取った。しかしそれを実らせてくださったのは、イエス様です。

イエス様は聖書の記録を見ると、五つのパンと二匹の魚を、<sup>きせき</sup>奇跡によって何十倍、何百倍に増やしました。本当にイエス様は今でもその奇跡を<sup>おこな</sup>行っている。一粒の種が何十倍、何百倍に増える。

お芋の場合にも、<sup>いも</sup>蔓<sup>かずら</sup>をただ差し込んでおくと、そして半年後に行ってみたら、こんな大きなお芋ができています。神様は不思議なことをなさいます。都会に住んでいる子供たちは、そのお芋や<sup>とうもろこし</sup>玉蜀黍を食べたりする時、お金があれば食べられると思っているでしょう。でもお金で玉蜀黍は作れません。お金でお芋は作れませんよ。何百万円お金を積み上げても、お米一粒作れませんよ。神様が造<sup>つく</sup>ってくださらない限り。

私たちはそのように神様によってすべては造られているということを、田舎に住んで、そして土と親<sup>した</sup>しむ時に、そのことを本当に感じるのです。理屈ではなくて本当に感じるのです。ですから各時代の神の民は、田舎に住んだのです。そして神様によって生かされ、守られていることを彼らは日々<sup>けいけん</sup>経験していたのです。

### …イエス様の経験…

私たちの模範<sup>もはん</sup>であるイエス様は、どうだったでしょうか。ルカによる福音書2章51、52節に「それからイエスは両親と一緒<sup>りょうしん いっしょ</sup>にナザレに下<sup>くだ</sup>って行き、彼らにお仕えになった。母はこれらの事をみな心に留めていた。イエスはますます知恵<sup>ちえ</sup>が加わり、背<sup>せ</sup>たけも伸び、そして神と人から愛された。」とあります。

イエス様はエルサレムの町に上<sup>のぼ</sup>って行くのではなくて、ナザレの町に下

ていった。ナザレはナザレから何のよいものが出るだろうかと言われたほど、皆さげすから蔑ままされていた田舎の村、そこでイエス様は少年時代を過すごすわけです。

そのことについて各時代かくじだいの希望きぼう 1 卷かんの 59 頁しるにはこのように記しるされています。



。「イエスは少年時代と青年時代を小さな山さんそん村すで過すごされた。」 ナザレ、彼は田舎の山かこに囲かこまれた、畑そだに囲かこまれた村で育そだった。そういう田舎で生活していたのですけれど、やがて彼は伝道の働きにたちます。それから彼はずっと田舎に居たわけではなくて、エルサレムの町にも来あるし、またガリラヤの町々あるを歩あくわけです。

その時のことについて、ルカによる福音書きょうみぶかの 21 章の 37 節ひるに興味深いことが書かれています。「イエスは昼のあいだは宮で教え、夜には出て行ってオリブという山で夜をすごしておられた。」面白いですね。イエス様は昼間は町で人々に教え、夜になったらオリブ山に行った。何しに行ったのですか。勿論もちろんお祈りもしたでしょう。ところがそれだけではないのです。ヨハネの 7：53 と 8：1 には「そして、人々はおのおの家に帰って行った。イエスはオリブ山に行かれた。」お祈りのためということもできますが、実はイエス様は蝸牛かたつむりのようにいつも何かを持かたっていましたね。イエス様は肩からかけている毛布もうふをいつも持ねっている。夜寝る時の毛布なのです。ですから、イエス様は、昼間は宮で教え、夜はオリブ山でお祈りもし、あの毛布を使って寝ることもあるのです。そのように、家で寝ることもありましたが、オリブ山でもよく寝たと思われまたしす。というのは、家の中で寝る、それも確たしかに祝福ではありますのじゆくが、野宿そとする、夜、外で寝るといそとうことは、これにもまた祝福

があるようです。

### …自然の雰囲気の中に住む…

韓国かんこくの友達の話ですが、彼は自分の家もあるのですが、テントを張って寝たりするのです。何のためですか。この人たちの考え方によれば、家の中は風通しもあまりよくないからです。

E.G.ホワイトは夜寝る時には、窓まどはあけなさいと書いています。できるだけ窓を開けなさい。私たちはみんな窓を閉めて寝ますね。泥棒どろぼうに入られるのも嫌いやですけども、私たちは締め切った中で安らかに安心感を得るという傾向けいこうもあります。

イエス様は大金たいきんを持っていなかったから、安心してどこでも寝られたのかもしれませんが。でもとにかく、外で寝る、空気が自由に出入りするところで寝る。住まいきをできるだけ自然の雰囲気ふんいきの中で作る。ですから今いろんな住宅の問題で気がつき始めていますね。

今われわれを囲かこんでいる建物というものは、あまり木は使わないで、いろんな化学物質かがくぶつしつで組み立てられている。ベニヤ板も強きょうりよく力ちからな接着剤せつちやくざいが塗られています。ペンキも化学物質、昔は、い草ぐさの畳たたみがありましたけれど、今の畳はみんなビニール、ガラス繊維せんいです。私たちは今、化学製品によって取り囲いつたまれている。ですから一旦火事もうどくにあったら猛毒を出します。木が燃えたならそんなに害はない。たとえ燃えなくても、やはりそこからの影響えいきょうは本ほん当とうに小さいかもしれないけれど、私たちの健康けんこうによくありません。ですから私たちは、そういうものが私たちのまわりみに満ち満ちている、そこで生活しているわけですから、せめて努力してできるだけ自然のものを使う。できるだけ窓を開けるようにする。空気が入ってくるようにしなければいけない。

われわれの住まい、天国での私たちは、アダムとエバがエデンの園で住んだように、私たちも自然の中に住むことになると思います。ですから、今からできるだけ自然じゅんのうの中に順応じゅんおうできるように、そういう生活を楽しめるよう

に、化学物質によって閉じ込められている生活ではなくて、できるだけ自然に解放された中で生きる生き方を心がけるのがいいことではないかと思いません。

アドベンチスチホームの124頁にこのように書いてあります。「都会に住みながら身体的に精神的に靈的に向上する家庭は百のうち一つとしてない。信仰、希望、愛、幸福は町から離れて、野や山や樹木のある場所で得るほうがはるかに得やすい。」

これは真理です。私たちは出来るだけ、都会の中の人間が踏み固めてしまった、人間が塗りつくしてしまった、人間が築き上げてしまったものに囲まれて生活するのでなくて、できるだけ神様がわたしたちのために与えてくださったその自然の中で生きる。私はつくづく人間は自然界の中にいる時に一番自然だなあと思うのです。

### …天国での仕事、農業…

それではこれから天国のことを考えてみましょう。天国では私たちはどんな仕事をするのでしょうか。イザヤ書の65章17，21節を見てみましょう。

「見よ、わたしは新しい天と、新しい地とを創造する。さきの事はおぼえられることなく、心に思い起こすことはない。彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。」

ここにわれわれは田舎で家を建て、田舎にマッチした、自然界にマッチした家を建ててそこで住む。というのです。今度は初代文集の68頁のところですが、

「それから我々は、都の外の輝かしい光景に目を向けはじめた。〈実は都も輝かしいのですけど、ここでは都の外の輝かしい光景に目を向けた〉そこでわたしは、実に輝かしい家を見た。それらは銀のように見え、美しい真珠

をちりばめた四本の柱に支えられていた。これには聖徒たちが住むのであった。……それから家のそばにある畑へ出て行って土を扱うのを私は見た。」

ホワイト夫人は幻のうちに天国を見て、そこで神の民たちが住む家を見せられるわけです。そこで神の民がどういう仕事をするのかも見せられました。このようにして私たちは最初に申しあげましたように、神様が最初に私たち人間のために祝福として与えてくださった農業、これが私たちの天国へ行ってからのまた仕事であるようです

天国に行ったらもうお医者さんは失業します。だれも病人はいませんから仕事がない。でも私たちは農業をして、そして皆で食べるのです。天国に行っても私たちは作物を作って食べるのです。ですから、この地上では私たちは本当に畑からとれる、いろいろなお野菜、果物そういうものを作ることをこの地上で覚えておくことはいいことです。勿論天国に行って教えてもらう



こともできるでしょう。でもこの天上の生活は、この地上に始まるというのですから、この地上で農業を、土いじりを少しでも始めておくことはきっと大きな祝福になる。

これが神様のご計画ですから。わたしは土をいじるのは嫌だ。手を汚すのは嫌だ。そういう人は天に行ってからどうなりますかね。でもこの地上で私たちは先ず土いじりを楽しむ。野菜作りを、果物作りを趣味とするような生き方を今から初めておくならば、きっと大きな祝福になる。聖書、証しの書を学んでいると、そういう気がします。

### …田舎に家を…

そこで、結論として私たちが心がけるべきこと、それは先ず一つには今、町の中に住んでいる方々は、今すぐ町を出て田舎に行きなさいと言ってもそれは出きないでしょう。でも、神様にいつもお祈りをしてください。神様、田舎にもし行くべきなら、どうぞ所を備えてください。その時を与えてくださいと。もしあなたが、求めるならば与えられる、探すならば見いだす。

町の中であぐらをかいているならば探せないでしょう。でももし本当に田舎に行きたいと思うならば、探すならば見つけることができる、そして、もし出て行くべきなら、神様がきっとチャンスを与えて下さる。そのチャンスを見逃さないようにして頂きたい。でもそれが何時であるか分かりません。ある人は今週かも知れませんが、ある人は一ヵ月後、ある人は一年後、ある人はもっとあとかも知れない。

神様は一人一人の事情を良くご存知です。奥さんが信者だからといって、未信者のご主人を無理に連れて行くことはできないでしょう。そういう家庭のためには、神様が祈りに答えてその時を与えて下さる。ですから決して一律に今すぐにでも出て行けではなく、出ていくべき時は何時か、神様どうぞ私たちの行くべき所を備えてください、与えてください、得させてくださいと求めるならば必ず与えられる。そういうチャンスを見逃さないように、祈り求めていることが大事です。

そしてそういう田舎に家を見つけるまでであっても、この地上で町の中に住んでいる時にはできるだけ休みの日には田舎に出て行ってください。ディズニーランドとか遊園地とかそんなところに行くのではなくて、田舎に行ってください。そして自然の中で楽しむことを子供たちにも教えないと、子供たちは天国に行きたくないというかも知れませんが。天国よりディズニーランドに行きたいとか、ゲームセンターに行きたいとか言うかも知れません。もし、そういう教育をしていないならば。

本気ですよ。天国というのは作り話ではないのです。単なるお伽話で

ほんとう じゅんび  
はないです。本当のことです。それならば、そこに行く準備を今しなければ  
おこた こうかい  
いけません。もしそれを怠っているならば後悔します。取り返しのつか  
しんけん  
ない後悔にならないうちに、私たちは真剣にこの地上から天国へ行く準備を  
かんきょう した  
して、そして今、与えられている環境で、できるだけ土に親しむ、家もで  
あ はな  
きるだけ開け放して、空気を入れ、お日様の光を入れ、そして少しでもいい  
ひとつぼのうえん たがや さくもつ  
から、一坪農園でもいい、土を耕して作物を植える喜びを味わう、そう  
いうことが大事だと思います。

### ほんき さいりん そな …本気で再臨への備えを… こうずい

ノアは洪水が来るということを神様から教えられました。ノアは洪水って何か分らなかった。雨が降るって彼は何だか分らなかった。でも神様が天から水が降ってくるんだとおっしゃったから、ノアは信じて、そして洪水がこの世界を全部覆うと神様がおっしゃった。それがどんなことか分らなかったけれど、それを信じて、彼は山の上に住み、この地上の自分の土地は売って、自分の家も売ってそのお金で彼は山の上で船を作った。

それはその当時の人々からすれば、馬鹿なことだ。本当に馬鹿げたことだ。みんなこの地上に土地をできるだけ広く、地上にできるだけ立派な家を持つようとしている。ノアはそれを売り払って山の上で船を作ったんです。こんな馬鹿なことはないです。でも彼は本気でそれをしたわけです。そのお蔭でその子孫である私たちも、今日こうしてこの地上に生きているのです。ノアの信仰のお蔭です。

そして私たちセブンスデーアドベンチスト教会の先輩たちはどうでしたか。彼らはイエス様が私たちを迎えにいらっしゃるということをお心で信じて、じゃが芋を植えてあったけれど、これも掘らなかった。イエス様がもうお迎えに来るのだ、天国へじゃが芋を持って行く必要はないでしょう。ですから彼らはじゃが芋を掘らなかった。勿論、彼らがその時イエス様が再臨なさると考えていたのは間違いでした。でも彼らは本気で再臨を信じて、待っ

た。私たちセブンスデーアドベンチストはそのような信仰の先輩たちの子孫  
なのです。

あのウィリアム・ミラーやE. G. ホワイトたちが本気で再臨に備えたそ  
の備えを、私たちも今しなければいけない。何も私は今じゃが芋を掘るなど  
言っているのではないのですよ。掘ってもいいです。掘らなければいけない  
でしょう。

でも本気でイエス様のご再臨があるということを信じていただきたい。そ  
して何時<sup>いつ</sup>いらっしゃるか分からないけれど、その時にイエス様のところに行け  
るように備えをしていただきたい。その心<sup>こころがま</sup>構えさえあるならば、それに相応<sup>ふさわ</sup>  
しい行動<sup>こうどう</sup>が生まれてくるはずです。

証しの書に書いてあります。私たちはこの世の<sup>たから</sup>宝<sup>ざいさん</sup>、財産を持って天国へ  
行くことはできない。だからイエス様がお迎えにいらっしゃる時には、その  
財産は全部この地上に捨てて行かなければならない。でもその財産を何時<sup>いつ</sup>  
処分<sup>しょぶん</sup>すべきか。神様は教えてくださるのです。

それをイエス様のご再臨<sup>ごしょうだいじ</sup>の時まで、その財産を後生大事<sup>ごしょうだいじ</sup>に持っていたら、  
その財産のためにその人は、魂<sup>たましい</sup>を失<sup>うしな</sup>ってしまうでしょう。イエス様がお  
出<sup>い</sup>でになる前に、私たちは品物、財産ををだんだんだんだん減らしていく。  
そしてイエス様がいらっしゃる時には、身軽になってたった一つの品性、イ  
エス様を信じる信仰です、それを持ってわれわれは天国に行くのです。

祈りましょう。その財産が皆さまをこの地上にしばりつけてしまって、天  
国に行き損<sup>そこ</sup>なうことのないように。

### …地上の生活から天上の生活に…

地上の生活から天上の生活<sup>うつつ</sup>に移って行く私たちセブンスデーアドベンチ  
スト、私たちがそのような生活をする時、そのようなライフスタイルをわれ  
われ<sup>じっこう</sup>が実行する時に、ほかの人たちは一体<sup>いったい</sup>なんだと注<sup>ちゅう</sup>目<sup>もく</sup>するでしょう。そ  
の時に人々は神様の働きかけに助けられ、私たちと一緒に天国へ行く備えを

するでしょう。

でももしわれわれアドベンチストがご再臨の話をしながらか、天国の話をしながらか、この地上に財産をどんどんどんどん貯めていくなれば、みんなそれを見てどう思うでしょう。おう、彼らは地上に宝をどんどん貯えているじゃないか。じゃ私たちもそうしよう、ということにならないでしょうか。

私たちはアドベンチストの生き様、アドベンチストの生活態度、これが人々にどういふ影響を及ぼすか、われわれがただ頭だけの、口先だけの信仰で、どんどんどんどん貯金を貯めて楽しんでいふならば、そんな人の証しにはだれも耳を貸しませんよ。目を留めませんよ。

そんなアドベンチストがこの地上に増え広がれば広がるだけ伝道は遅れます。イエス様のご再臨は遅れます。本気で再臨に備えるアドベンチストは、数は少なくても、本気でそういう生き方をする。

私は本当にそう思うのです。そういうアドベンチストをこの地上に、一人でも二人でも備えさせてください。この地上に宝を貯えるアドベンチストは何千人、何万人、バプテスマ何人、それは結構です。でも本当のアドベンチストがこの地上に生れる時、その時に本当の証しがたてられる。本当の伝道がなされる。そうでないかぎり、伝道は終わりません。教会もごったがえして、喧嘩ばかりして、あんな人のいる教会に行きたくない。当たり前でしょう。本当に私たちが今アドベンチストとして、神様に何を期待されているのか。本気で考えること。そして、実行しなければいけない。

皆さんの上に神様の祝福がありますように心からお祈りしています。本当にありがとうございました。

# 天国に国籍を持つ者

こくせき  
…わたしたちの国籍は天にある…

では今日は天国に国籍を持つ者というテーマで一緒に学んでみたいと思います。最初に私たちは、いつも天国のことを覚えていたいと思います。というのは私たちが日本の国を誇りに思うように、私たちは天国に誇りを持つ者として、天国のことをいつも覚えていたいからです。

先ほどお読みいたしましたけれど、もういっぺんピリピ人への手紙3章20節を開きましょう。素晴らしいお言葉は何べんも何べんも繰り返して読みたいと思います。

「わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。」

私たちの故郷からイエス様が私たちを迎えにきて下さる。それを私たちは待ち望んでいる。皆さんそうですか。それを待ち望んでいますか。セブンスデー・アドベンチストはそのことを本気で信じている人たちです。

それでは、イエス様が私たちを迎える時、そのことを再臨といいますけれども、イエス様の再臨がどんな素晴らしい状態なのか、これは拙い絵ですけれど、イエス様の周りには大勢の天使たちが、ラッパを吹きながら、イエス様のみ名を賛美しながら、イエス様のこのグループが降りてきてくださるんですね。

私たちを迎えに来て下さるので



す。ですから私たちはそこに行く備え、イエス様にお会いする準備をしなければいけません。

そこで私たちの毎日の生活というものがとっても大事だということを学びたいと思います。

教育の359頁の言葉をもう一度読みましょう。何べんでも読みたいと思います。

「地上の生活は天上の生活の始まりである。」この地上の私たちの今の生活は、天の生活のはじまりだ、というのです。昨日も申し上げたように、この地上ではこんな生活、天国に行ったらあんな生活とそういう違い<sup>ちが</sup>があつてはいけない。この地上での生活がそのままエノクのように毎日毎日すぎて、ある日<sup>いっぽ</sup>一歩進んだらそこが天国だった。これがわれわれアドベンチストが経験することなのですね。

### …ある教会での結婚式の時の出来事…

ある時、私は教会で結婚式に出席しました。皆さんも結婚式に出席したことがあるかと思いますが、教会堂の中で結婚式をしますね。そして、結婚式がすみました。その時の経験なのですけど、結婚式がすまして、みんなぞろぞろ教会から出てくるわけです。新郎新婦<sup>しんろうしんぶ</sup>に挨拶<sup>あいさつ</sup>して出てくるのですけ



ど、2、3人の人が教会から出てきて、いそいで教会の脇<sup>わき</sup>のほうに行ったのですね。そしてそこでタバコを吸<sup>す</sup>っている。“あー美味<sup>おい</sup>しい”やれやれということでタバコを吸っている。

どうしたのですか。この人たちはタバコが好きなのですよ。でも教会で結婚式をしている間、教会の中でタバコ吸ってはいけません。だから吸いたいけれど、ずっと我慢していたわけです。結婚式は良いけれど、タバコが吸えないのは嫌だな一早く終らないかなーと思っていたかも知れませんね。そして結婚式がすんだ。大急ぎで教会から出て、裏に行つて“あー、これでほっとした。”と喜んでるわけです。タバコ好きな人でないとその気持ちは分からないでしょうね。皆さんは分からないかも知れない。私も分かりません。

そしてもしそんなタバコ好きな人が天国に行つたとします。どうするでしょうか。天国に行くのに、タバコをポケットに入れて行きました。でも天国に行つた人は誰もタバコを吸わないのですね。“あれ誰も吸わないな、ちょっと困ったな。”

イエス様の前でタバコを吸うわけにはいかないし、またこの人たちの前でも吸うわけにはいかないし、どこかタバコ吸うところないかな。と思つて喫煙室を探すわけです。こっちを探しても、向こうに行つても、タバコを吸うところがない。早く吸いたいんだけど吸う場所がない。

この人は地球上でタバコをいつも吸っていたので、これは、やはり地球にもど戻らなければタバコを吸えないみたいだな。天国にはタバコを吸うところはないみたいだ。地球に行く飛行機はないかなと思つて調べても、もう天国から地球に戻る飛行機はないんです。

どうしよう。なんか千年期が済んだら、天国から地球に戻ると聞いたから、千年間待たないといけないかな。千年間タバコを吸わないで待つのは、これはしんどいな、というわけで、タバコ好きな人が天国に行つたらもう大変です。そこは天国じゃない、地獄ですよ。タバコ好きな人にとって天国は地獄です。

イエス様は、皆をそんな地獄の思いをさせるために天国へ連れて行きますか。イエス様はみんなが幸せであつてほしい。みんなが天国にきてよかつ

たと思ってほしい。それならば私たちは、今天国ではできないことは、嫌きらいになるように訓練くんれんしておかなければならない。タバコというのは、タバコを吸わなくなるとニコチンの中ちゅうどくしょうじょう毒症状がまんがでて、吸わないと我慢できない。そういう習慣性しゅうかんせいがありますから、やっぱり地上での生活は天上での生活のはじまりでなければいけない。

むこうで吸えないものは、ここでも吸わないようにしなければいけない。そういう意味で私たちは、今この地上で天国の生活の始まりを経験しなければいけない。ということです。

### …体は変えられる…

それでは神様が私たちのためにどんな素晴らしいことを、約束して下さったか、み言葉からみて見たいと思います。

ピリピ人への手紙の3章21節です。ここにはこう書いてあります。「彼は、万物ばんぶつをご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑いやしいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう。」

私たちはこの地上で持っているものを全部持って行くわけではない。昨日学びましたように、私たちが天に持って行ける唯一ゆいいつのものは何でしたか。品性です。私たちのこの体は変えられると聖書に書いてあります。一瞬いっしゆんのうちに神様は私たちの体を変えて下さる。この卑いやしいからだを、この欠点けってんだらけの、問題もんだいだらけの体をイエス様は変えて下さる。というのが聖書の約束です。

では具体的にどのように変えてくださるのか、聖書を見てみましょう。イザヤ書35章3～6節です。

「あなたがたは弱すこった手を強くし、よろめくひざを健すこやかにせよ。心おのほうふくのく者に言え、『強くあれ、恐れてはならない。見よ、あなたがたの神は報復ほうふくをもって臨のぞみ、神の報むくいをもってこられる。神は来て、あなたがたを救われる』と。その時、見えない人の目は開かれ、聞こえない人の耳は聞こえるようになる。その時、足の不自由な人は、しかのように飛び走り、口のきけな

い人の舌は喜び歌う。それは<sup>あらの</sup>荒野に水がわきいで、さばくに川が流れるからである。」

私たちが天国に行ったとき、この<sup>いや</sup>卑しい体は変えられ、そしてみ言葉によると、見え<sup>つえ</sup>ない人の目は開かれる。今まで杖<sup>ある</sup>をついて道を歩かなければいけなかった人、この人の目は見えるようになります。



“あっ！あれがイエス様だ”  
“あっ！あれが天使だ”  
“あっ！これが私の妻だ”  
“あっ！これが私の夫だ”  
“これが私の子供なのか！”  
目の見えなかった人たちは見えるようになる。そう聖書は約束してくださる。

耳の聞こえ<sup>い</sup>なかった人たちは、そして、もの<sup>い</sup>の言えなかった人たちは、イエス様のいら<sup>き</sup>っしゃるその天の音楽を聴くことができます。そしてイエス様のみ名を心から賛美することができます。イエス様有<sup>ありがと</sup>難うございました、と心から言える、神様にお<sup>れい</sup>礼を言うことができます。喜びの歌を歌うことができます。



それから足の不自由だった人、今まで<sup>くるまいす</sup>車椅子でしかどこにも行けなかった人は、もう車椅子もいりません。もう鹿<sup>しか</sup>のように飛び走る。私たちの体はそ

のように変えられる。一瞬<sup>いっしゆん</sup>にして変えられる。聖書はそのように約束<sup>さいわ</sup>しています。この約束<sup>さいわ</sup>を信じることのできる人は幸いです。

「各時代の希望」3巻の341頁の言葉<sup>ことば</sup>を見てみましょう。

「…彼らは、この世では不具<sup>ふぐ</sup>であったり、病気<sup>びやうき</sup>だったり、みにくかったりしたかも知れないが、完全な健康<sup>きんせい</sup>と均整のとれた肉体をもってよみがえる。」

このような完全な体によみがえる。生れ変わる。生きて主を迎える人たちは、またたく間に変えられる。

目は見えるようになり、  
耳は聞こえるようになり、  
口は賛美を歌えるようになり、  
車椅子はもういら  
ない、鹿のように飛び走  
ることができる。このよ  
うにイエス様は私たち、  
この卑<sup>いや</sup>しい体を持って  
いる、この弱い体を持つ  
ている私たちをこのよう  
に作り変えて下さる。



この地球を六日のうちに作ってくださったイエス様が、私たちのこの故障<sup>こしょう</sup>だらけの体<sup>なお</sup>をまたたく間に治して下さる。これが神様の約束です。

### …変えられないもの…

でもここで大事なことを覚えておきたいと思います。この朽<sup>く</sup>ちる体、卑<sup>いや</sup>しい体はまたたく間に変えられますけれども、イエス様のご再臨の時に変えられないものがあります。何でしょうか。

何でもお出来<sup>でき</sup>になるイエス様ですけれども、イエス様<sup>ひんせい</sup>が変えられないものがある。それは品性<sup>ひんせい</sup>です。私たちの心です。心は変えられない。聖書を見て

みましよう。

黙示録 2 2 章 11 節です。「不義ふぎなる者はさらに不義けがを行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」。

これはイエス様のご再臨なさる時のことです。義なる者は義なるままに、不義なる者は、不義なるままに、そのまま続けさせたと。先ほどから申しあげているように、この地上の生活は、そのまま天つに引き継がれて行きます。ではこの不義なる者は不義なるままに、義なる者は義なるままにということが、どういうことを意味しているのか、分わかりやすく書かれている、「教会かんこくへの勧告」下巻 2 5 1 頁の言葉を見てみましょう。

「われわれはキリストが間まもなく来こられることを少しの疑うたがいもなく信じている。それはわれわれにとって作り話つくばなしではなく現実なのである。キリストが来られるその時に、われわれを罪から清め、品性の欠陥けっかんを除き、あるいはわれわれの気質きしつや性癖せいへきの弱点じゃくてんを直なおしてくださるのではない。〈われわれの欠点やわれわれの品性の足りなさを、ご再臨の時に直してくださるのではない〉もしそういうことがわれわれのためになされるとすれば、その時〈ご再臨〉が来る前にすべて完成しているのである。

主がこられる時には、聖なる者はさらに聖なることを行うままになるのである。罪を清められ、肉体と霊とうとを聖たもにして 貴い状態とうと たもに保ってきた人々が、その時、不死ふしの体しあに仕上げられる。〈体は変わるといふこと、この欠点だらけの体が変わる。見えなかった目は見えるようになる。聞こえなかった耳は聞こえるようになる。歩けなかった足は歩けるようになる。〉しかし不義なる者、清められていない者、汚れた者は永久けが えいきゆうにその状態じょうたいにとどまる。その時には、彼らの欠陥けっかんを除いて清い品性を与えるためのどんな働きもはやなされない。これはすべて今日の恵みの期間中に行われなければならない。今こそこの働きがわれわれのために完成されなければならない。」

E.G.ホワイトは神様の靈感を受けてこのように書きました。そして、この

じつぶつきょうくん  
ことはアドベンチストホームの4頁、キリストの実物教訓の246頁にも書いてあります。

### …品性を変えてくださる今が正念場…

イエス様は、よく奇跡きせきをなさいました。嵐あらしを静めたり、病氣の人を治したり、死んでいる人を生き返らせたり、また石をパンおおぜいに変えたり、パンを大勢の人に分け与えたりいろんな奇跡をなさいました。

しかし、イエス様はここのご再臨の時に、奇跡的に私たちの品性を変えることはなさらない。その奇跡の力を用いて、体は作り変えるが、心はつくり変えない。義なる者は義なるままに、不義なる者は不義なるままに。でも何時我々の品性が変えられるのか、それはご再臨の時ではなくて、今だと書いてあります。

### …至聖所における仲保の働き…

今がこの恵みの期間なのです。聖所せいじよでの働きというよりも、至聖所しせいじよでの働き、罪を取り除く働き、その時に我々の品性が完成される。罪を犯さなくなる。罪きらが嫌いになる。タバコが嫌いになる。お酒が嫌いになる。そういう心われわれに我々を今つくり変えてくださる。それは今なされなければいけない。ご再臨の時ではない。ご再臨の時では遅すぎる。イエス様はその時に慌あわてて奇跡を行うことはなさらない。

ですから我々は今、今の生活だいいが大事なのです。今どういう習慣しゅうかんを身につけるか、どういう品性きずを築き上げるか、本当に今が正念場しょうねんば〈最も大事な場面〉、大事な時なのです。

## …私たちの模範、イエス様…

そこでイエス様は私たちの前にあらわれて下さいました。イエス様の模範もはんが我々の前にあります。

ペテロの第一の手紙2章21節を見てみましょう。

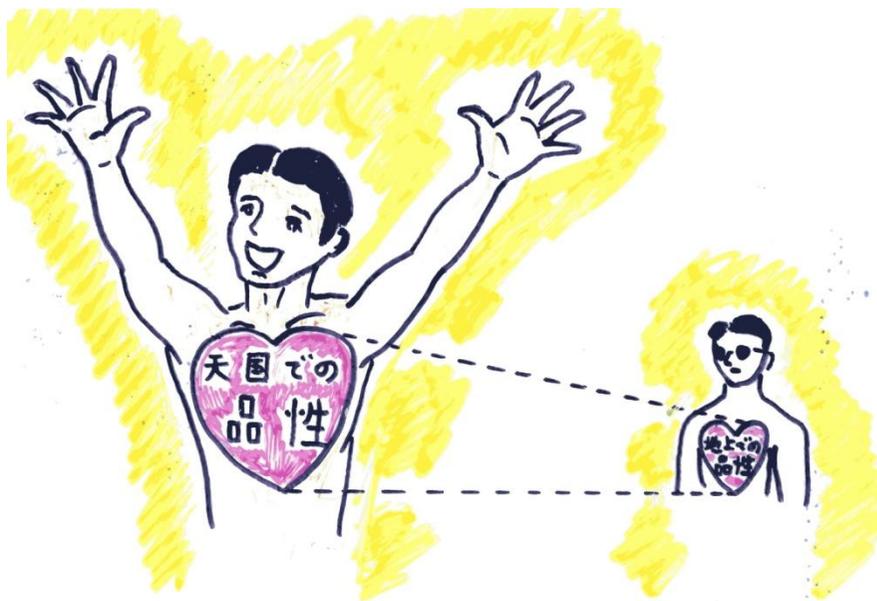
「あなたがたは、実に、じつ、め、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。」

イエス様は私たちの模範になられたのです。イエス様は私たちの贖あがない主であると同時に、私たちに模範を残されたのです。

イエス様は私たちの模範なのです。

でもある人たちは、イエス様だからそれができたんですよ。わたしたちは罪深い人間ですから駄目だめなのです。だから、イエス様が必要なのです。イエス様よろしくお願いします、と言って自分がイエス様の模範ならに倣おうとしない。イエス様と私たちは違う。イエス様は完全な生活をおくれる。私たちは完全な生活をおくれない。私たちはどうせ駄目な人間。どうしようもない人間。まあ、ご再臨の時に変えてもらいましょうか。というわけです。

でも、イエス様はそんなことはなさらない。今それをなさりたい。今変えたい。イエス様は今我々の品性を変えたいとお望みになっていらっしゃる。



そして、イエス様はあらゆる問題の中で私たちの弱さに気づかせ、私たちの  
欠点けってんに気づかせ、私たちの足りなさに気づかせ、私のところにいらっしや  
い！私のところにおいで！治してあげるよ、頑張がんばろうよ、その悪なおいくせは治  
そうよ、そのよくない習慣は捨てようよ、一緒に頑張がんばろうよ、とイエス様は  
おっしゃる。

でも、いやいや、わたしたちはこの世では結構です。この世では私やりた  
いことがあるから。好きなことがあるので、これはちょっとやめられないの  
ですよ。天国に行った時にはやめますから。その時にはどうぞよろしく。

いいえ、イエス様はそんなお方おかではないのです。私たちが罪を犯すたびに、  
私たちが一つ罪を犯す時、イエス様は十字架のあの血まみれの経験おかしをなさる  
のですよ。わたしたちが罪を犯すたびに、イエス様は十字架の痛みを経験な  
さるのです。そして私たちが罪を犯さない人間になるように、望んでいらっ  
しやる。助けようとしていらっしやる。作り変えようとしていらっしやる。  
今作り変えようとしていらっしやるのです。

### …私たちの弱さを思いやるイエス様…

「教育」の73頁のところに

「人が神の子としてふさわしい者となるためには、どんなに訓練されなけれ  
ばならないか、また地上においてはどのように原則げんそくを実行し、天の生活をお  
くらなければならないかということを示すために、キリストはおいでになっ  
た。」とあります。

私たちがこの地上でどのようにして天での生活を実行すべきなのか、それ  
を教えるためにイエス様はこの世においでになって下さったのです。私たち  
とおなじ罪に傷つけられ、罪に弱められたこの体を、イエス様はおとりにな  
って、私たちの痛みを経験してくださった。私たちが罪に勝利することがど  
んなに辛つらいことか、大変なことであるかをイエス様は経験なさったのです。

ですから私たちの弱さを思いやることができるのです。そして、私たちが

罪に勝利するように、お望みに<sup>のぞ</sup>なっていていらっしゃるのです。ですから私たちは、イエス様と一緒に天国への旅を続けることができるのです。

私たちがみ国に行くには、イエス様がかつて歩まれたその足跡<sup>あしあと</sup>がちゃんとついている。み足の跡<sup>ふ</sup>に踏み<sup>したが</sup>従うようにとイエス様は模範を残して下さいました。

そしてイエス様は聖霊の神様を通して私たちといつも一緒にいてくださいます。そして聖霊の神様に助けていただいて、聖霊の神様に教えていただいて、私たちはあの血染めの道<sup>ちぞ</sup>を、イエス様が歩かれたあの血の滴<sup>したた</sup>る道を、私たちはイエス様と一緒に歩くのです。

でもイエス様と共に歩くなら、それは決して辛い道<sup>つら</sup>ではない。決して喜びのない道ではない。どんなに辛いことの中にも、苦しいことの中にも、慰<sup>なぐさ</sup>めがあり、そして喜びがあります。イエス様と一緒にくびき<sup>お</sup>を負って、天国へむかって進んでゆきたい。これが私たちの、今の毎日の生活でなければいけない。



### …今イエス様に作り変えていただく…

この地上にいる間は、自分の好きななことをして、イエス様のご再臨の時には奇跡的に変えていただいて、その時から立派な品性の持ち主になろうなんて、そんなことは考えて頂きたくない。本当に今、イエス様に作り変えていただきましょう。

イエス様は今私たちのためにその働<sup>いこう</sup>きをやろうとしていらっしゃる。1844年10月22日以降<sup>しせいじよ</sup>イエス様は至聖所での働<sup>いこう</sup>きを、罪を私たちの中から

取り除く働きを始めていらっしゃるのです。<sup>もちろんゆる</sup>勿論赦して下さいます。何べんでも赦して下さいます。

でも私たちが罪を犯さない人間になるように、イエス様は今一生懸命働いていらっしゃる。<sup>いっしょうけんめい</sup>それに私たちも<sup>こた</sup>応え、イエス様と協力して神様のみ心を行い、神様に<sup>き</sup>栄光を帰したいと思ひます。

## (衣・食・住に関するE.G.ホワイトの引用文)

## 再臨待望者の衣服について

## ◆ 服装によって判断される

衣服とその着方は、普通その男性や女性の人柄を表わすものと見られています。わたしたちは着ている衣服のスタイルによって、その人の品性を判断します。つましく敬虔な婦人はつましい服装をします。洗練された趣味や教養のある心は、質素でその人にふさわしい服装を選ぶことに表れます。……服装と態度に見栄をはらない簡素な女性は、真の女性の特性が道徳的価値にあることを理解しています。簡素な服装はなんと美しく、好ましいものでしょう。それは野の花にも比べられる美しさです。(家庭の教育 444)

衣服のための出費を節約しましょう。あなたの身につけているものが、絶えずあなたと接触する人たちに影響を及ぼしていることを考えましょう。他の場所で非常に必要とされているお金を自分の衣服に浪費してはなりません。ぜいたくな衣服に対する好みを満足させるために、主の金銭を費やしてはなりません。(家庭の教育 453)

## ◆ 簡素な服装はそれを着けている人の宗教をあかす

簡素な衣服は良識のある婦人を最もひきたせます。クリスチャンであることがわかるように装いましょう。よい行いをし、神を敬うと言う婦人にふさわしく、単純で簡素に実を飾りましょう。(家庭の教育 453)

## ◆ 簡素な衣服のあかし

わたしは、単純で簡素で気取らない衣服を、若い姉妹たちにすすめます。簡素な衣服や態度ほど他の人々に光を輝かせることのできるよい方法はありません。あなたは永遠のものと比較して、この世のことを正しく評価していることをすべての人たちに示すことができるのです。(家庭の教育 448)

## ◆ 体に合って場所にふさわしいもの

他のすべてのことと同じく、衣服においても創造主の栄えをあらわすことはわれわれの特権である。神はわれわれの服装が清楚で健康的であるばかりでなく、また身体に合った似つかわしいものであることをお望みになる。わたしたちは服装を最上にするようにつとめるべきです。神は幕屋の奉仕にお

いて神に仕える者たちの衣服について細かいことまで定められました。このように神はご自分に仕える者たちの衣服について一つの考えを持っておられることをわたしたちは教えられています。アロンの衣服について与えられた指示は非常に特殊なものでしたが、それは彼の服が象徴であったからです。同じようにキリストに従う者たちの服も象徴でなければなりません。わたしたちはすべてのことにおいてキリストを代表するものでなければならぬのです。わたしたちの服装はすべての点で清楚であり、つつましく、清潔であることを特色とすべきです。(家庭の教育 443)

◆ 自然の事物から学ぶ

こうしてキリストは天が価値ありと認める美を自然の事物によって例示された。その美とはしとやかな**上品さ、単純、純潔、適切**であって、これがあって初めてわたしたちの衣服が神に喜ばれるものとなるのである。(家庭の教育 444)

◆ きちんとして魅力のある清潔なもの

**身なりをきちんと魅力的**にするよう、服装に関する正しい習慣をつくることを若い人に勧めましょう。衣服を**清潔に、きちんと**つくろっておくことを彼らに教えましょう。彼らの習慣はみな彼らが人の助けとなり慰めとなるようなものとしなければなりません。

**よく似合うふさわしい服装**をしましょう。十セントのキャラコのもので、きちんと清潔にしておかなければなりません。(家庭の教育 451)

◆ 真の美しさの魅力

……イエスのけがれの無い宗教は、それに従う者に、人工的でいつわるものより、単純な自然の美と洗練された自然の優雅さと高尚な清らかさを求めます。(家庭の教育 457)

服装については良識のあるものと、ばからしいものを見分けて、きちんとした**簡素な衣服**を身につけるように子供に教えなさい。まもなく来ようとしている**キリストの再臨に備える民として**、わたしたちは優勢な時代の流行に対照的なつつましい服装の模範を世の人々に示さなければなりません。これらのことを繰り返し話して、あなたのでようとするを賢明に計画しなさい。そのようにしてからその計画を家族の中で実行するのです。子供の意見や願望よりも高い原則によって導かれることを決心してください。もしわたしたちの心がキリストの心に結ばれているなら……注意をうばったり論争を生じたりするようなものは何も身につけないでしょう。(家庭の教育 457)

◆ 年齢や身分相応な衣服を着せなさい

愛する姉妹へ。愛情によって子供をあなたの心に結びつけなさい。すべてのことにおいて彼らにちゃんとした世話と注意を与えてやりなさい。彼らが身なり  
のことでひけめを感じないよう、よく似合う衣服を着せてやりなさい。なぜなら  
彼らの自尊心が傷つけられるからです。……年齢と身分にふさわしく、きち  
んと似合った身なりをしていることはいつもよいことです。(家庭の教育458)

◆ 手足をちゃんとおおいなさい

手足には特に注意してたくさんの熱量がある胸部や心臓をおおうのと同じよ  
うによくおおわなければなりません。子供に手足をむき出しにするような、あ  
るいはそれに近い服装をさせる親は、子供たちの健康や生命を流行の犠牲にし  
ているのです。もしこれらの部分がからだと同じぐらいに暖かくなければ血液  
の循環は均等に行きません。重要な器官から遠い手足が十分におおわれていな  
いと、血液は頭部に追いやられて、頭痛を起こしたり、鼻血を出したりさせま  
す。また胸の部分に血液が集まりすぎると胸部に充満感をもって、せきや動悸  
を生じます。また血液が胃にいきすぎると消化不良となります。

母親は流行を追うあまり、子供に手足をほとんどむき出しにした服装をさせて  
います。そうすると血液は冷えて血管にゆきわたらなくなり、内臓器官にふり  
むけられ、循環を乱し、病気を起こすようになります。創造主は顔のように手  
足を露出に耐えるようにはお造りになりませんでした。主は……また手足も体  
と同じように暖かくなっているように、そして人間の命の流れを大量に流すよ  
うに、そこに太い血管や神経を備えられました。手足は血液を末端まで運ぶた  
めに、よくおおわなければなりません。



**サタンは流行を考え出し、**手足をむき出しにさせて、命の流れがその本道から冷えて戻るようにさせました。そして親は流行のとりこになり、神経も血管も収縮してしまって、神が意図された目的に応じなくなるような服装を子供にさせています。その結果彼らの手足はいつも冷えきっているのです。理性よりも流行に従う親は、このようにして子供から健康を奪ったことに対して神に申し開きをしなければならないでしょう。生命そのものでさえ、しばしば流行の神に犠牲としてささげられるのです。(家庭の教育 459)

◆ 男子と女子の服装のちがい

**女子がその服装や外見をできるだけ男子と同じようにし、男子の服装と非常に似通ったように身を飾る傾向がひどくなってきています。**神はそれを嫌われます。「女はつつましい身なりをし、**適度に慎み深く身を飾る**べきであって」とあります(テモテ第一・2:9)。

神は男子と女子の服装にははっきりした区別をするように意図され、それについて明白な指示を与えることは十分大切なことであると考えておられます。なぜなら両性が同じ衣服をつけることは混乱を生じ、大いに犯罪を増加させるからです。(家庭の教育 460)



◆ 教会のための装い

けばけばしい装いで神の聖所を汚してはなりません。

わたしたちはみな、きちんと清潔に、秩序のある服装をしなくてはなりません。聖所にまったく似つかわしくない外見を飾ることにふけてはなりません。服装に見えを張ってはなりません。なぜなら不敬の思いを増長させるからです。人々の注意がしばしばあれこれと美しい衣服の品定めにはうばわれるので、彼らの思いは礼拝者の心にあってはならないことで乱されます。神が思考の座を占め、礼拝の対象でなければならないのです。厳粛で神聖な礼拝から心をひくものは何でも神に喜ばれません。蝶飾りやリボン、ひだ飾りや羽飾り、金や銀の装飾品を見せびらかすことは偶像礼拝の一種で、神を拝する神聖な礼拝にまったくふさわしくないことです。

ある人たちは、世から離れるようにとの神のみ言葉が要求されることを実行するには、身なりにかまってはならないという考えを認めています。安息日に神の礼拝に出席し、聖徒の集まりに出るのに、ふだんの帽子をかぶり、週日に普通した同じ服を着ることによって、世と妥協しないという原則を実行していると思っている姉妹たちがいます。またクリスチャンであると公言するある男子

たちも服装について同じ見解を持っています。このような人たちは、安息日にはほこりっぽく汚れた、ほころびてさえいる衣服をだらしく着こんで、神の民とともに礼拝につどうのです。

この種の人々は、世間的に榮譽を与えられ、自分にも特に好意を持ってもらいたいような友人と会う約束でもする場合には、できるだけ最高のいでたちで彼の前に現れようと努めるものです。なぜならこの友人は、もし彼らがぼさぼさの頭髪で、不潔な服をだらしく着て現れば、侮辱されたように感じるでしょう。それなのにこの人たちは安息日に大いなる神を礼拝するためつどうとき、どんな服を着ていこうか、どんな外観をしていようかかまうことはないと考えます。(家庭の教育 461)

◆ つつましく健康的で便利なものならば、流行の習慣に従いなさい

クリスチャンは世間の人と違った服装をして人にあきれられてはなりません。しかし、彼らが自分の義務と考えて服装をつつましく健康的なものにしようとしたとき、それが流行おくれであったとしても、世間の人と同じようになろうとして服装を変える必要はありません。世の人々がみな自分とは違っていても、気高い独立心と、正しいものでありたいという**道徳的な勇氣**を表わすべきです。もし**つつましく、便利で、健康的な服装**が流行し、それが聖書の教えに一致したものであるなら、そういうスタイルの服を着ても、神や世間の人に対するわたしたちの関係には少しもさしさわりがありません。クリスチャンは、キリストに従い、服装を神のみ言葉に一致させるべきです。彼らは極端を避けなければなりません。人々の賞賛や非難に気をとられず、まっすぐな道をけんそんに歩み、正しいことはあくまでも正しいとしなければなりません。(家庭の教育 445)

◆ 極端をさける

服装のばかげた流行を追って、時間を浪費してはなりません。きちんとした似つかわしい服装をしなさい。しかし飾りすぎたり、あるいはだらしく不精な服装をして、人々の話題になるようなことをすべきではありません。神の目があなたに注がれており、あなたが神の是認か否認か、どちらかの生活をしていることを知っているもののように行動しなさい。(家庭の教育 445)

◆ 服装にかまうことと虚栄とを混同してはならない

虚栄と衣服について絶えずくどくどと語り、自分の衣服にはかまわず、不潔で、秩序や趣味を無視した服装をすることを徳と考える人たちがいるが、彼女たちの衣服はしばしば、どこからか飛んできて彼女たちの上に止まったかのように

見えるのです。このような人たちは自分たちの衣服が不潔であるのに、常に虚栄を非難します。彼女たちは礼儀正しいことや身ぎれいにするのを虚栄といっしょにして考えているのです。

身なりに不注意であったり、だらしない人たちは、めったに高尚な会話をすることがなく、また優雅な感情に欠けています。彼女たちは時どき風変わりであることや無作法であることを謙遜であると考えているのです。(家庭の教育 445)

◆ キリストの警告

キリストは衣服に心を奪われることに注目されて、それをあまり考えないように自身に従うものたちを戒め、次のようにお命じになりました。「なぜ着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えてみるが良い。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、……ソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」と。衣服における虚栄と浪費は婦人の特に陥りやすい罪です。ですからこの警告は直接女性に対して言われたものです。キリストの柔和と美しさに比べれば、金や真珠や高価な服装はなんと無価値なものでしょう。(家庭の教育 446)

◆ 衣服への愛から生じる危険

衣服を愛することは、クリスチャンの行いを危険にさらします。また慎み深く、まじめさを特色とするクリスチャン夫人とおよそ反対の品性を作ります。人目をひく、ぜいたくな衣服は、しばしばそれを着る人の心に色情を起し、見る人の心にいやしい感情を呼びさますのです。神は、品性の破滅はしばしば衣服に対するうぬぼれや虚栄をほしいままにする結果であることを知っておられます。高価な衣服は善をなそうとする気持ちをなくすことを神は知っておられます。(家庭の教育 447)

◆ 必要な教育

衣服について正しい原則を教えない教育は完全とはいえない。このような教えを欠くときに、教育の働きははかどらなかつたり、道を誤ったりすることが多い。衣服に執着し、流行に心を奪われることは、教師にとってもっとも油断のならない敵であり、また最も有力な妨害の一つである。(家庭の教育 451)

◆ 秩序があり、趣味のよいもの

服装においては、なくてもよいような飾りやみせびらかしを避けますが、着るものはきちんとした、けばけばしくない、つつましい、その人にふさわしい秩序と趣味のものを着用します。

上品な趣味を悪いと言ったり、軽蔑したりしてはなりません。信仰が実生活にあらわされるときに、私たちは簡素な衣服を着るようになり、善行に熱心になるので、自然に私たちは目立った存在になるのです。しかしきちんと、さっぱりした衣服の趣味がなくなると、実質的に真理を離れることとなります。というのは、真理は決して私たちを墮落させるものではなく、高めるものだからです。

姉妹がたへ。服装はその人がキリストと聖なる真理の側に立つものか、あるいは世の側に立つものかを示すのですが、あなたのはどちらでしょうか。(家庭の教育 451)

◆ 色や模様趣味のよいもの

色については趣味を生かさなければなりません。色彩の統一は便利ですし、また望ましいことです。この場合肌の色を考慮に入れましょう。地味な色を求めましょう。模様物を使うときは、それを選ぶ人の見えや浅薄なうぬぼれを示すような大きくて燃え立つような模様は避けなければなりません。またいろいろ違った色をつける風変わりな趣味もよくありません。(家庭の教育 452)

◆ よい質のものを買うことは経済的である

質の良いものを買って丁寧に仕立てさせることは良いことです。これは節約です。しかしごてごてした飾りは必要ありません。それをほしいままにつけることは神のみ事業のための金銭を自己満足のために使ってしまうからです。(家庭の教育 453)

◆ 節約

世的な人は衣服に多くの金銭を使います。しかし主はその民に、世から出て、それを離れなさいと命じておられます。はでな服装やぜいたくな衣服は、終末時代に住んでいると信じている人たちにふさわしくありません。……(家庭の教育 453)

◆ ばからしい流行と歩調を合わせるために、多くの者はわざとらしくない単純さに対する趣味を失って、技巧的なものに心を奪われていきます。彼らは時間と金銭、知力や真の霊的高揚を犠牲にして、流行界の要求に全身全霊をささげます。愛する若い姉妹へ。流行を追う服装をしたり、レースや金や、いろんな飾りを身につけて見栄を張ろうとする傾向があなたの中にあります。それはあなたの宗教や、あなたもっている真理のあかしにはなりません。分別ある人たちは、うわべを飾ろうとするあなたの試みを弱い心と強いうぬぼれの証拠とみるでしょう。(家庭の教育 453)

◆ 不適當な見えがあってはならない

身を飾り、帽子に羽をつける若い姉妹がたに、あなたがたの罪のために救い主の頭には恥すべきいばらの冠がかむらせられたのですよと申したい。あなたがたが貴重な時間を身なりを飾ることに費やすとき、栄光の主は質素な縫い目のない衣服をまとしておられたことを覚えましょう。身を飾ることに疲れるあなたがたは、イエスが苦しむ人や困っている人を祝福するために、しばしば絶え間ない骨折りや自己否定、自己犠牲に疲れ果てられたことを、どうか心に留めてください。……イエスがみ父の前にはげしい叫びと涙とをもって祈りを注ぎだされたのは、わたしたちのためだったのです。救い主が涙を流され、それらの涙が救い主の顔を人の子がかつて味わったことのないほどの悲しみや苦惱で汚したのは、わたしたちが今ほしいままにし、またイエスの愛を閉め出すこのうぬぼれと虚栄や快樂をいとおしむ心からわたしたちを救うためにほかならなかったのです。(家庭の教育 454)

◆ 不必要な飾り

**不必要な飾り**をやめて**節約**したお金を、神のみ事業進展のためにとっておきましょう。自己否定の教訓を学び、それを子供たちに教えなさい。(家庭の教育 455)

◆ 明らかになった一つのこと

わたしは、簡素な麻のカラーを着けることは悪いと思うかと聞かれたことがよくあります。わたしはそれに対していつも否と答えてきました。ある人はわたしがカラーについて書いたことを極端にとって、その類のものはどんなものもつけてはいけないのだと主張しています。わたしは金銭をかけて細工を施したカラーや、ぜいたくで不必要なリボンやレースを使ったカラーを、ある安息日遵守者が見えや流行のためにつけていたり、今でもつけているのを示されました。わたしはカラーについては、カラーのようなものは何もつけてはいけないとか、リボンについては、リボンは一つもつけてはいけないとか解釈されるつもりはありませんでした。(家庭の教育 455)



◆ ぜいたくな飾り、極端な飾り

牧師やその妻は簡素な服装の模範とならなければなりません。彼らは**質のよいものを身につけて、きちんと心地よく装わなければなりません。値段は高くなくても、むだなものや飾りを避けなければなりません。**なぜならそういうものはわたしたちに不利となるからです。わたしたちは若い人たちに**単純な服装ときちんとして簡素さを教育しなければなりません。**たとえ費用がわずかしかなからなくても、余分な飾りは取り除きましょう。(家庭の教育 455)

◆ 見えのためにではなく

真に**上品な人**は外観のためにからだを飾ることに満足しません。

聖書は**つつましく**装うことを教えています。「また、女はつつましい身なりをし」とあります(テモテ第1・2:9)。これは派手な色彩、ごてごてした飾りのついた見えを飾る装いを禁じているのです。見る人の注目を引き、羨望をかきたてるように作られたものはどんなものでも、神のみ言葉が命じるつつましい装いではありません。

服装において克己することはクリスチャンの義務です。簡素に装い、見えを飾るあらゆる種類の宝石や飾りを避けることは、信仰に伴うものです。わたしたちは世的なものの愚かさを知る少数の人々の中にはいっているでしょうか。世俗的な人は娯楽にふけり、ぜいたくな衣服を求めているのです。(家庭の教育 456)

◆ からだをしめつけてはならない

衣服はゆったりと身にあって、血液の循環を妨げたり、自由で完全に自然な呼吸を妨げたりしないようにしなければなりません。**足は寒さや湿気から適当に保護**しなければなりません。このようにすればわたしたちは戸外で、朝晩の露や、雨や雪にも、風邪を引くことを心配しないで運動することができるのです。(家庭の教育 458)

◆ 標準となるべき神のみ言葉

衣服に関するすべてのことは聖書の基準に固く従いつつ、厳しく警戒しなければなりません。流行は外界を支配してきた女神であって、しばしば教会の中に巧みに取り入ってきます。教会は神のみ言葉をその基準とすべきであって、親はこの問題について賢明に考えなければなりません。彼らは子供に世の流行を追うような傾向がみえたら、アブラハムのように決断をもって家族のものを自分に従うよう命じなければなりません。世と結束しないで、彼らを神と結合させるべきであります。(家庭の教育 464)

## ～再臨待望者の食生活～

- キリストの実物教訓 47 頁

キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわそうと熱望しておられる。キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。

- 食事と食物に関する勧告 10 頁

キリストの賜物によって、到達することができるようにされた完全さの標準に達するように、神は我々に望んでおられる。神は我々が正しい側を選んで神や天使たちと結合し、神のみかたちを我々の内に回復させる原則をとり入れるように求めておられるのである。神は、聖書と、偉大な書物である自然界に生命の原則を表示しておられる。これらの原則について知識を得、これに服従することによって神と協力し、心と肉体の健康を回復することは我々の仕事である。(MH 114-115,1905 年)

- 食事と食物に関する勧告 17 頁

神の性質にあずかる者はすべて、世の中で肉欲のために生じる墮落から免れる。食欲に溺れる者たちがクリスチャンの完全さに到達することは不可能である。(2T 399-400, 1870 年)

- 食事と食物に関する勧告 20 頁

死を見ないで天に移されるために、神がご自身のものとして聖別しておられる特別の民が、良い業をするのに、他の人々に遅れてはならないのである。肉体と精神のすべての汚れから自らを清め、神を畏れて、完全な聖さに到達しようと努力する点で、彼らは他のどんな階級の人々よりもはるかにすぐれていなければならない。それは、彼らの公言することが他の人々の場合よりも程度が高いのに比例していなければならない。(1T 487, 1867 年)

- 食事と食物に関する勧告 29

神はご自分の民が、肉と霊の一切の汚れから自分を清め、神を恐れて全く清くなるように求めておられる(2 コリント 7:1)。この働きに無関心であり、これから逃れ、自分でするように神が要求しておられることを、神にしてもらおうと待っている者は、神の御旨を実行しようとしてきた謙遜な人々が、エホバの怒りの日に隠されるとき、自分の欠けていたことが分かるのである。神の民が、自分で何の努力もせず、聖霊が降って彼らの悪を除き誤りを正すのを待っているならば、また、それが肉と霊の汚れから彼らを清めて第三天の大いなる叫

びに加わるように準備するものと当てにしているならば、彼らは欠陥があったことを発見することを私は示された。神が命令されたこと、すなわち、肉と霊の一切の汚れから自分を清め、神を恐れて全く清くなる努力をして自ら準備した人々にのみ、聖霊、すなわち、神の力は降るのである。(1T 619, 1867年)

- 食事と食物に関する勧告 32 頁

肉類、茶、コーヒー、また濃厚で不健康な食品を使用することの害について教えられた人々は、不健康であると分かっている食物への食欲をほしいままにし続けることはない。神は、食欲が清められ、良くないこれらの食物に対して自制することを我々に要求なさるが、これは神の民が完全な者として神の前に立つことができる前になされなければならない働きである。

- 食事と食物に関する勧告 39 頁

食欲をほしいままにしながら、心を神に捧げ続けることはできないのである。有害な欲望をほしいままにし続けるために病身になり、知的に障害をきたすならば、肉体と霊の清めは不可能になってしまう。使徒は、クリスチャン品性の完成に成功するために肉体の健康状態が重要であることを理解して、「自分の体を打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、他の人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない」と言っている。彼は御霊の結ぶ実について語り、その中に節制を挙げて、「キリスト、イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである」と言っている。(Health Reformer March 1878年)

- 食事と食物に関する勧告 40 頁

光は一度退けられると他の機会にも無視される。肉体の法則を犯すことは、土戒を犯すのと同様に罪であるが、それはどちらも神の法則を破ることなしにはできないからである。主を愛するよりもはるかに超えて食欲や味覚を愛していながら、我々は心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして主を愛することはできない。神は我々の全身全霊を求めておられるのに、我々は神の栄光を高める自分の力を日毎に減じているのである。我々の誤った習慣によって生命力を弱めながら、なお自分はキリストの僕であり、不滅の身体になるための最後の仕上げを受ける準備をしていると公言している。

- 食事と食物に関する勧告 41 頁

食欲に溺れることは、知的進歩と心の清めのためには最大の妨げとなることを、我々は学ばねばならない。これ程健康改革を唱えているにもかかわらず、我々の多くは誤った食事をしている。(9T 156, 1909年)

- 食事と食物に関する勧告 45 頁

食欲を満たして胃を乱用することは、教会内に存在する大部分の試練を招いている原因である。

また不節制な人とは、必ずしもアルコールを飲む人だけに限らない。不節制な食事の罪、すなわち頻繁な食事、過食、濃厚な食物を食すこと、不衛生な食物を食すことは、消化器の健全な機能を破壊し、脳を害し、判断を誤らせ、理性的で冷静な、また健康的な思考と行動を妨げるものであって、これが教会の試練を招く大きな原因なのである。

- 食事と食物に関する勧告 53 頁、

飲食、衣服のすべてが我々の霊的な進歩に直接関係する。(YI May 31, 1894 年)

- 食事と食物に関する勧告 54 頁

我々が食欲をほしいままにして健康を害したり、生活の誇りが支配的であったりする間は、神の霊が我々を助けに来て、クリスチャンの品性を完成させて下さることはできない。(Health Reformer September 1871 年)

- 食事と食物に関する勧告 54 頁

神の性質にあずかる者は皆、世にある欲のために滅びることを免れる。食欲に溺れる人が、クリスチャンの完全さに到達することは不可能である。(2T 400, 1870 年)

- 食事と食物に関する勧告 54 頁

これほどまでに多くの病人を出し、神に捧げるはずの栄光を神から奪っている原因は、食事の不節制である。神の民の多くは自制しないので、神が彼らのために制定された高い霊的標準に到達することができないし、また悔いて改心しても、彼らが利己的な性質に負けたために被った損失は、永遠を通じて証されるであろう。(Letter 135, 1902 年)

- 食事と食物に関する勧告 55 頁

終わりに近づくにつれて、食欲をほしいままにさせるサタンの誘惑も更に有力となり、更に勝利し難くなるのである。(3T 491-492, 1875 年)

- 食事と食物に関する勧告 60 頁

食事が最も単純な種類のものでなければならぬ時代があったとすれば、それは今日である。肉類を子供たちの前に出すべきではない。その影響は低い情欲を刺激し、強め、道徳的な力を麻痺させてしまう傾向を持っている。動物性脂

肪を用いずに調理し、できるだけ自然のままの状態に備えられた穀類や果実が、天国に行く準備をしていると公言するすべての人の食卓に出される食物でなければならない。食事が興奮させる性質を持たなければ持たないだけ、情欲は制しやすい。肉体と知能と道徳的な健康を無視して、味覚を満足させることを考えてはならない。

- 食事と食物に関する勧告 68 頁

知恵と霊性とが発達して人格を構成するのは、唯一の媒体である肉体を通してである。

- 食事と食物に関する勧告 72 頁

健康改革の働きは、我々の世にある苦難を減らし、神の教会を純潔にするための神の手段である。

- 食事と食物に関する勧告 73 頁

最上の食物が何であるかを知るには、人類の食事に対する神の最初のご計画を学ばなければならない。…創造主によって我々のために選択された食事は穀類、果実、堅果類、および野菜で構成されている。これらの食物ができるだけ単純で自然のままに調理されたものが、最も健康的で栄養に富むのであって、もっと複雑で刺激的な食事によっては得られない体力や耐久力や知力を与える。 (MH 295-296, 1905 年)

- 食事と食物に関する勧告 74 頁

神はご自分の民を、単純な果実と野菜と穀類を食す生活に連れ戻そうとしておられる。神は、我々の最初の祖先に、自然のままの果実をお与えになった。 (Written E. From V. T 1890 年)

- 食事と食物に関する勧告 74 頁

神は彼らを、最初人類に与えられた食事に連れ戻しておられるのである。その食事は、神が備えて下さった材料で作られた食物で構成されなければならないのであって、これらの食物に主として用いられる材料は果実と穀類と堅果類であるが、様々な根菜類も用いられる。 (7T 125-126, 1902 年)

- 食事と食物に関する勧告 85 頁

穀類、果実、野菜及び堅果類の中に、我々の必要なすべての栄養素が含まれているはずである。我々が単純な気持ちで神に求めるならば、彼は肉類で汚れていない衛生的な食物を調理する方法を教えて下さる。 (MS 27, 1906 年)

穀類や果物、野菜類や堅果類の中に、我々が必要とする栄養素のすべてが含ま

れている。

- 食事と食物に関する勧告 104頁

特に有害なのは、ミルクと卵と砂糖が主要な成分であるカスタードやプリンである。

### 再臨信徒の食卓から肉食の廃止

- 食事と食物に関する勧告 359 頁

真理を知っている人々が、永久に変わらず正しい主義の原則の側に立つのはいつのことであろう。いつ彼らは、健康改革の原則に対して真実な者となるのだろう。肉類を用いることが危険なことを、彼らはいつ学ぶのだろう。たとえ肉食が安全であったことがあったにしても、今は安全でないことを告げるように私は命じられている。(MS 133, 1902 年)

- 食事と食物に関する勧告 359 頁。

私に与えられた光によると、我々が、すべての動物性食品を用いることを止めなければならなくなるのは、余り先のことではない。牛乳でさえも、廃止しなければならなくなるであろう。病気は急速に増えつつあり、人間が地を呪ったために、神の呪いが地に降りかかっている。人間の風習や習慣が地球をこのような状態にしたので、動物性食品以外の食品が、人類家族のために代用とされなければならない。神は他のものを我々に与え得るのである。(Union Conference Recrd [Australasion]、1899年7月28日)

- 食事と食物に関する勧告 367 頁

知性と道徳、及び肉体の力は、習慣的に肉食をすることによって減退する。肉食は身体の調子を狂わせ、知能を曇らせ、道徳的な感覚を鈍らせる。愛する兄弟姉妹、あなたの最も安全な道は肉に手を触れないことであると、我々は申し上げる。(2T 64、1868 年)

### 牛乳卵も安全でなくなる時

- 食事と食物に関する勧告 324 頁

食事の改革は漸進的に行いなさい。人々に牛乳やバターを用いないで食物を調理する方法を学ばせなさい。人類の間で罪悪が増すのに比例して、動物の病気が増えるから、卵や牛乳、クリームやバターの使用が安全でなくなる時が間も

なく来るということを彼らに告げなさい。墮落した人類の不義のために、全動物界が我々の世界を呪う病気で呻く時は近い。

● 食事と食物に関する勧告 329 頁

貧しい人々は、健康改革が示されると、「私たちは何を食べたらよいのですか。私たちには堅果類を買う余裕がありません」と言う。貧しい者に福音を宣教するときは、最も栄養になる食物を食べなさいと彼らに告げるように私は命じられている。彼らに向かって「卵や牛乳やクリームを食してはならない。食物を調理するのにバターを用いてはならない」と述べることは私にはできないのである。福音は貧しい人々に宣べ伝えられなければならない。そして、最も厳格な食事を勧める時はまだ来ていない……

けれども牛乳やクリーム、バターや卵を用いるのがもはや安全でなくなるときに、神がそれを示して下さることを、私は申し上げたい。健康改革における極端は、一つも擁護すべきではない。牛乳やバターや卵の使用に関する問題は、そのうち解決するであろう。現時点で、この分野に関する重荷を我々は持たない。すべての人にあなたの穏健さを知らせなさい。(Letter 37、1901 年)

● 食事と食物に関する勧告 332 頁

牛乳と卵とバターを、肉類と同類に考えるべきではない。場合によっては、卵を用いることが有益なこともある。牛乳と卵の使用を全廃すべき時は来ていない。食事が主としてパンと牛乳からなっている貧しい家庭があり、彼らには果物が乏しく、堅果類の食品を買う余裕もない。健康改革を教えるときは、他のあらゆる福音事業の場合と同様に、人々の事情をよく理解して彼らを取り扱わなければならない。味が良く、栄養になり、しかも高価でない健康改革の食品を作る方法を彼らに教えることができるまでは、健康改革の食事について最も進んだ提案をする自由はないのである。

食事の改革は漸進的に行いなさい。牛乳やバターを用いずに食物を調理する方法を人々に教えないさい。動物の病気が人類の罪悪の増加するのに比例して増しているから、卵や牛乳やクリーム、あるいはバターを用いることが安全でなくなる時が間もなく来るということを彼らに告げなさい。墮落した人類の不義のために、地球を呪う病気によって全動物界がうめく時は近い。(7T 135、1902 年)

● 食事と食物に関する勧告 332 頁

我々は常に少量の牛乳と、いくらかの砂糖を用いてきており、これを文書によっても、あるいは説教の中でも非難したことは決してない。牛の病気が余りにひどくなり、これらの食物は将来廃されるようになることを我々は信じるが、

砂糖や牛乳を我々の食卓から全く廃止すべき時期はまだ来ていない。(Letter 1、1873年)

- 食事と食物に関する勧告 333 頁

牛乳を用いることが安全でなくなる時が来るかもしれないが、もし乳牛が健康であり、その牛乳がよく煮てあれば、悩みの時を未然に作り出す必要はない。  
(Letter 39、1901年)

- 食事と食物に関する勧告 335 頁

我々は牛の病気が次第にひどくなりつつあり、地球そのものが退廃していることを見、また牛乳や卵を使用するのが最善のことでなくなる時の来ることを知っているが、まだその時は来ていない。主は必要なものを備えて下さることを、我々は知っている。「神は荒野に食卓を備えて下さるであろうか」との質問が尋ねられる。私は、「まことに神はご自分の民のために食物を供給なさる」と答えることができると思うのである。

世界各地において、牛乳と卵の代わりになる食物が用意されるようになる。そして、これらのものを廃止すべき時期が来たとき、主は我々に知らせて下さるであろう。すべての事において自分たちを指導して下さる恵み深い天の父がおられることを皆が実感するようにと、神はお望みになる。主は、世界各地にいるご自分の民に食事に関する技術や技巧を与え、生命を維持するために地の産物を利用する方法を教えられる。(Letter 151、1901年)

- 食事と食物に関する勧告 340 頁

牛乳や卵やバターを、肉と同類に考えるべきではない。場合によっては、卵を用いることが有益である。牛乳と卵の使用を完全に廃止すべきだと述べるべき時は来ていない。……

食事の改革は漸進的に行いなさい。牛乳やバターを用いずに食物を調理する方法を人々に教えなさい。人間の悪が増加するのに比例して、動物の病気が増加しつつあるから、卵や牛乳、クリームやバターを用いることが安全でなくなる時が近いことを彼らに告げなさい。墮落した人類の罪悪のために、我々の世界を呪う病気に苦しめられて、全動物界がうめく時は近いのである。神は、これらのものを用いなくて、衛生的な食物を調理する能力と機転を彼の民にお与えになる。わが教会の信者には、あらゆる不健康なレシピを廃させなさい。(7T 135、1902年)

- 食事と食物に関する勧告 343 頁

チーズは決して胃に入れるべきではない。(2T 68、1868 年)

### **証の書に見る再臨信徒の食事の原則**

- 食事と食物に関する勧告 354 頁

神の最初のご計画、すなわち人間が地の自然の産物を食べて生きていくという計画に、神は我々を一步一步導き返そうとしておられることを、私は繰り返し示された。([C.T.B.H 119] C.H. 450、1890 年)

- 食事と食物に関する勧告 355 頁

すべての者が肉食を止めるよう目指すべき時は、まだ来ていないのだろうか。天使たちとの交友に入れるようになるために、純潔で洗練された、聖なる者となるよう求めている人たちが、どうして魂と肉体にそれ程有害な影響を与える食物を取り続けることができるだろうか。贅沢品として肉を消費するために、どうして神に造られた生き物の生命を奪うことができるだろうか。

### **昇天のための準備**

- 食事と食物に関する勧告 355 頁

主の来臨を待っている人々の間で、肉食は最終的に廃止されるであろう。肉類が彼らの食事の一部を占めなくなるのである。我々は常に、この目的を覚えつつ、それに向かって着実に行動するよう努力すべきである。肉食の習慣にある限り、神が喜んで与えて下さった光に調和しているとは考えられない。特に我々の健康機関に属している者は、全員が果物と穀類と野菜を食して生きて行くよう自らを教育すべきである。

- 食事と食物に関する勧告 356 頁

キリストの間近い来臨を待望していると公言する人々の間に、より大きな改革が見られるべきである。信者の間で未だに行われていない動きを、健康改革がすることになっている。肉食の危険に目覚めるべき人々で、尚も肉を食しており、そのために肉体と知能と霊的な健康を危険にさらしている者たちがいる。肉食の問題について、現在半分しか改心していない多くの者が、神の民から離れ去って、もはや彼らと共に歩まなくなるであろう。

- 食事と食物に関する勧告 361 頁

病気にかかる傾向は、肉食によって十倍も増える。(2T 64、1868 年)

- 食事と食物に関する勧告 388 頁

主はご自分の民を、死んだ動物の肉に触れたり、これを味わったりしない状態に導こうと望んでおられるのであるから、現代の真理を知っている医師は誰も、これらのものを与えるよう指示してはならない。死んだ動物の肉を食べることは安全でないのであって、間もなく牛乳も、神の律法を守る民の食事から除外されるようになる。間もなく動物界から来るものは何であっても、食用にすることが安全でなくなるであろう。神の言葉をそのまま信じ、真心をもって神の律法に従う人々は祝福されるであろう。神は、彼らを保護する盾となって下さる。しかし、神は侮られる方ではない。

繰り返し、私は食事の問題について申し上げる。肉食に関して、我々は過去に敗れて行ったようなことを今日することはできない。それは人類家族にとって常に災いであったが、今日は人間のとがと罪のために、神が野の獣に下された呪いによって特にそうなったのである。動物の病気は益々多くなっており、今日我々にとって唯一の安全な道は、全く肉に触れないことである。(Letter 59、1898 年)

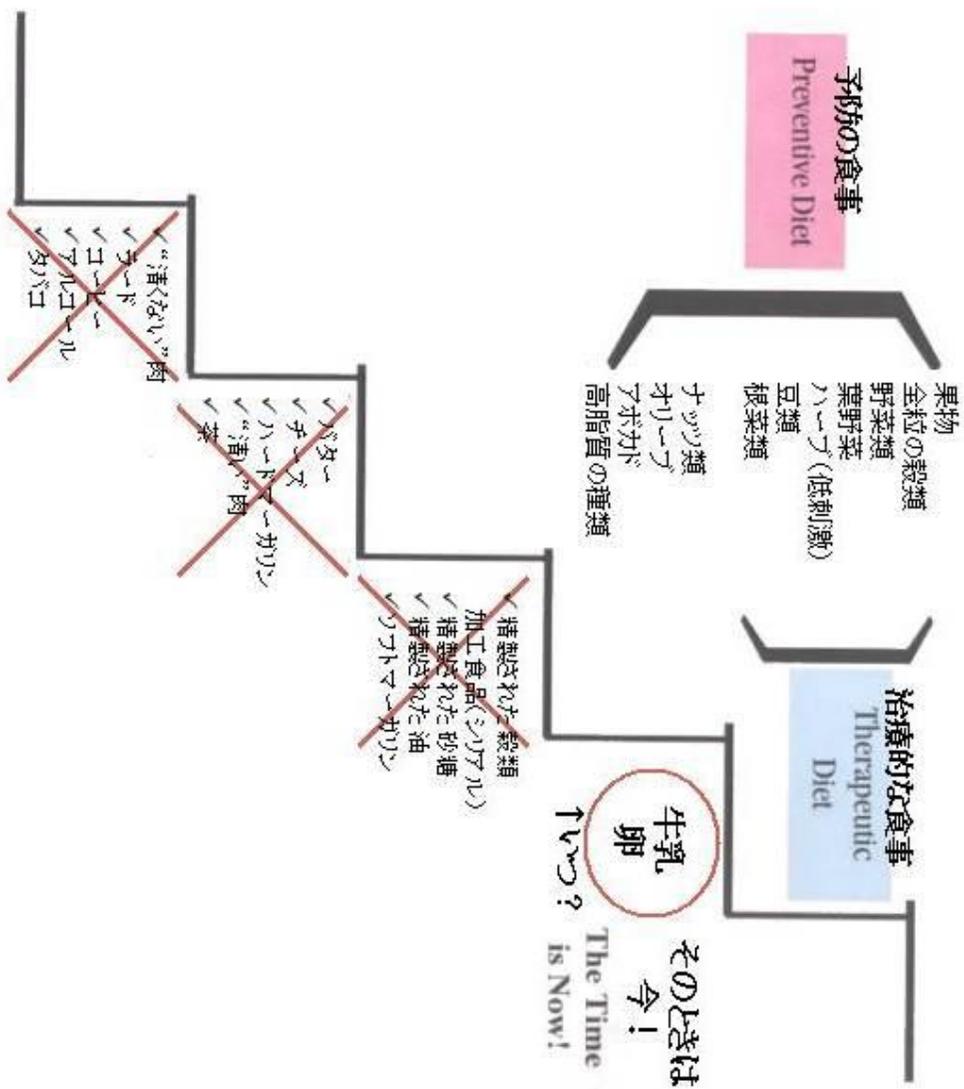
## まとめ

### 食事の原則—何を食べるか、どのように食べるか、いつ食べるか。

- ◇ 食事改革・・・ 漸進的に。常識を働かす。
- ◇ 自然・・・・・・ 果物、穀類、野菜、堅果類をできるだけ自然の形で、しかもおいしく調理されたものを主に食する。加工食品はできるだけ少なくすること。
- ◇ 時節のもの・・・ できるだけ、その土地で、その時節のものを食する。
- ◇ 未精白・・・・・・ 黒パン、玄米、全粒粉などを使って、精白、漂白されたものは減らすようにする。穀類やシリアルはよく煮て食する方が体のためによい。

- ◇ **バラエティ**・・・食事の都度に変化を与えるべきであって、一食にあまり多種類のものをとらないようにする。メニューと調理法を単純にする。
- ◇ **濃厚な食品**・・・濃厚な食品を制限する。香辛料、ラード、揚げ物、ベーキングパウダー、ベーキングソーダ、酢の使用をできるだけ避ける。
- ◇ **時間を決める**・・・決まった時間に食べて、食事と食事の間に最低5時間は置くようにする。消化器官は時間通りに規則正しく働くようになっているので、スケジュールが決まっていると、最も効果的に働くものである。
- ◇ **間食をしない**・・・食間にはたとえピーナッツ一粒であっても口にしない。間食をすると食物がいつまでも胃に残るので発酵をまねく。
- ◇ **1日2食**・・・「ほとんどのひとにとって」ベター。
- ◇ **朝食、夕食**・・・朝食は一日のうちで最も大切なので、しっかり取る。夕食を取るなら、寝る2〜3時間以上前に軽く取る。(例：果物とパンかクラッカー、せんべいなど)
- ◇ **過食**・・・必要な分だけ楽しんで食する。過食は頭脳を鈍くし、疲労と病気を招き、やがては寿命を縮めてしまうので要注意。
- ◇ **よく噛む**・・・ゆっくりとよく噛んで食べると、おいしく楽しいばかりでなく、消化吸収もよい。また過食を防ぐ。食事時間をくつろいだ楽しい時にしよう。
- ◇ **水を飲む**・・・食間に水を十分に飲む。純粋な軟水。食事の直前、直後、そして食事中は避けよう。
- ◇ **断食**・・・一週間に一日断食するのは良いことである。しかし続けて3日以上はしない方がよい(E.G.ホワイト)。断食は食欲を教育する助けとなり、自制心を強めてくれる。また多くの病気にとって最善の助けとなる場合があり、特に座業の人にとってはそうである。
- ◇ **味覚**・・・健康のために教育する。

# 食改革のステップー漸進的改革



## 再臨待望者の住いについて

### ■危機に備えて都会脱出

神の民は都会から脱出して、土地を耕し、作物を育てることができるような田舎に引っ込む必要がある。こうして彼らは単純で健康的な習慣の中に子供たちを育てる事ができる。危機に備えてすべての事を急いで準備する必要がある。(CL20)

### ■ついには大都市へ

サタンは人々に対し、あらゆる病気をいやすことのできる偉大な医師のようにみせかけながら、他方では病気や災害を生じさせ、ついには人口の多い都市が破滅して荒廃する。彼は今も活動している。海や陸における事故や災害、大火災、激しい突風、すさまじい降雹、あらし、洪水、たつまき、津波、地震など、あらゆる場所に幾多の形でサタンは力をふるっている。彼は取り入れまぎわの収穫を全滅させ、ききんと困窮を引き起こす。彼は空気を恐るべきウイルスで汚染させ、幾千人もの人が悪疫で死ぬ。これらのできごとはますますひんぱんになり、悲惨なものになる。破滅は人間にも、動物にもおよぶ。「地は悲しみ、衰え、……天も地と共にしおれはてる。地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ」(イザヤ 24:4,5)。(大争闘下 352)

### ■主のメッセージである

「都会から出よ、都会から出よ！」—これは主が私に与えられたメッセージである。(CL32)

### ■しきりに促す

私に与えられた光に調和して、私は人口の密集した大都市から出るように人々にしきりに勧めている。(追い立てる、急がす、励ます、激励する)(CL9)

大都会に神のさばきがくだる時が近づいています。間もなくこれらの都市は、おそろしくふるわれるでしょう。建物がどんなに大きく、どんなに強くても、どんなに耐火設備がしてあっても、神がそれらの建物に触れられるだけで、数分あるいは数時間にして廃墟となります。(CL7,8)

労働組合の支配的な力が非常に圧制的になる時が、急速に近づいています。わが民は、家族を連れて都会を出て、自分の手で食糧を生産できるいなかへ出て行くように、主は何度も示されました。なぜなら将来、売り買いのことが非常に深刻な問題になるからです。わたしたちはいま、わたしたちに何度も何度も与えられた教えに注意しはじめねばなりません。(CL9,10)

■幾度も繰り返す

幾度も幾度も主は我が民が都会から離れて、田舎に移り、自分たちの食物を作れるようにしなさいと教えられた。(CL9,10)

くりかえし、くりかえし主は我々がアウトポスト・センターから都会に働きかけるべきことを教えられた。(2SM 358)

■神のデザイン(計画)

我が民が都会から離れたところに位置する事が神のご計画であり、都会に働きかけなければならないが、住んではならない。(EV76)

■できるだけ早く

地に住む人々に圧倒的な災難(罰)が降る前に、主は本当にイスラエルに来るべき事件に備えるよう呼びかけておられる。両親がたに警告の叫びを送られる。…できるだけ早く大都市を脱出しなさい。(CL 12)

■日曜日の遵守に関して、間もなく危機がやってくる

日曜日遵守の党派は、その間違った主張を強化しつつある。このことは、主の安息日を守る決心をしている人たちにとって圧制を意味する。…神の摂理によって、都会から離れた場所を手に入れることができるなら、主はわたしたちがそうすることを望まれる。わたしたちの前途には悩みの時がある。

神の民は都会から脱出して、土地を耕し作物を育てることができるようなかに引っ込む必要がある。こうして彼らは、単純で健康的な習慣の中に子供たちを育てることができる。危機に備えて、すべてのことを急いで準備する必要がある。(CL21)

■都会に住むのは神のみ旨ではない。神の最初の計画へ

人々が都市に密集し、狭い土地や長屋に雑居することは神のみ旨ではない。…今日もそういう環境を楽しむことを望んでおいでになる。神の最初の計画に調和すればするほど、私たちは肉体と知能と霊の健康を獲得しやすいのである。(ミニ 337)

■都市から引っ越すのを神は望んでおられる

神の民が混雑と混乱のある町に住むことは神のみ旨ではない。…主はご自分の民が田舎へ引っ越すように望んでおられる。…家族を町から離すようにということが私のメッセージです。(2SM 356)

■神の戒めを守る民として

神の戒めを守る民として、我々は都会を離れなければならない。エノクがしたように、我々はそこに住まないで、都会に働きかけなければならない。(EV77,78)

#### ■ 両親の義務

できる限り、田舎に子供達のために家を作ることが両親の義務である。(CL12)  
神を敬わない人々と密接な関係を強いられるところに我々自身をおくべきではない。(CL20)

#### ■ 教育せよ

我が民を都会から田舎に出るように教育せよ。…(CL10,11)

#### ■ 注意深く、慎重

何か行動がなされる前に、全て注意深く考慮され、測られてからでなければ動き出してはならない。…それから行動に移す場合はためらってはならない。確固として、しかも神の前にへりくだって主に頼って行動しなさい。(CL26)

#### ■ 日曜休業令は最後のチャンス

神の民がこの世の財産に心をひかれてこれを貯える時間はもうありません。初代の弟子たちのように、荒れ果てたさびしい場所に隠れ家を求めねばならない時は、そんなに遠くはありません。ローマ軍によるエルサレムの包囲が、ユダヤのクリスチャンたちにとって逃げ出す合図であったように、法王制の安息日を強制する法令にわが国が権力を持つことは、わたしたちにとって警告となります。その時こそ、大都会から出て人里離れた山の中の引っ込んだところに住まいを求める時で、それはまた比較的小さな町からも出る準備となります。わたしたちは、この世に高価な住まいを求めないで、もっとよい国、天の国へ移る準備をしなければなりません。わたしたちの金銭を、自己満足のために費やさないで、儉約することを学ばねばなりません。(5T 462-465)

#### ■ 「道が摂理の中に開かれたら…できるだけ早く」「急ぐ必要がある」

まもなく都会には争いと混乱が起こり、都会を離れようと思ってもできなくなる時がくるであろう。(2SM 142)

#### ■ 最も不利な状況の中で働きを

平和と繁栄の時になし得なかった働きを、教会は最も失望的な不利な状況の中でしなければならぬであろう。(5T 463)

#### ■ 不必要に都会にとどまっていると

私は自分に与えられた光に調和して、人々が大都会から出るように訴えている。わが国の大都会は悪が増えている。不必要にそこにとどまる人たちは魂の救いを危険にさらしているということがますますはっきりしてきた。(CL9)

わたしたちは一つの民として、神がわたしたちに委託された働きをまだなしてあげていない。わたしたちは日曜休業令の施行によって生じる問題に対する備えができていない。危機が切迫しているしるしを見ると、立ち上がって行動することが私たちの義務である。椅子に座って悪を冷静に期待し、預言にそう言われているから、そうなるのであって、主がご自分の民を守って下さるという信念で自らを慰めているだけであってはならない。静かに座って、良心の自由を守るために何もしないならば、神のみ旨をおこなっていることにはならない。(5T 713-4)

我々が自らを思わしくない感化の下に置いているなら、我々の誤った道の結果を撤回して神が奇跡を働かすことを期待できるだろうか？いいえ、決してそんな事はない。(CL17)

(都会は)・・・両親と子供にとっても品性形成の働きは 10 倍も難しい。・・・両親方に、子供の訓練は彼らの魂の救いのために重要な働きであることを悟らしめよ。・・・わたしの子供たちの教育のために、都会を出よというのが私のメッセージである。・・・父親方、母親方よ、あなたの子供らの魂をどのように思っているのか？あなたの家族の者を天の宮廷に移されるように準備しているだろうか？王族の一員となるように準備させているだろうか？天皇の子供として。あなたの子供らの魂の価値と安逸と、気楽と便利をどうして比べるだろうか？(CL 13L)

必読の本：

- ① アドベンチストホーム 19,20,21 章
- ② カントリーリビング, (田舎の生活) (CL)





しかし、わたしたちの国籍は天にある。  
そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを  
わたしたちは待ち望んでいる。

彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによつて  
わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと  
同じかたちに変えて下さるであろう。

だから、わたしの愛し慕っている兄弟たちよ。  
わたしの喜びであり冠である愛する者たちよ。  
このように、主にあつて堅く立ちなさい。

ピリピ人への手紙 三章二十節

地上の生活は天上の生活の始まりである。

教育 三五九頁



サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471  
TEL (0980) 56-2783 FAX (0980) 56-2881

E-mail: [contact@srministry.com](mailto:contact@srministry.com)  
ホームページ: [www.srministry.com](http://www.srministry.com)